第26回 日本訪問歯科医学会

2026.11.1 SUN 10:15～15:20
御茶ノ水ソラシティカンファレンスセンター

プログラム・抄録集

あきらめない
届く訪問歯科医療を目指して
― 広げよう在宅歯科医療の可能性 ―



シンポジウム「在宅患者への訪問歯科診療」
教育講演「訪問歯科診療における薬剤関連顎骨壊死（MRONJ）への対応 ～発症予防・早期発見・多職種連携の視点から～」
特別講演「認知症と訪問歯科 ―口から守る脳の健康：原因・予防・最新治療と訪問歯科の役割―」
ランチョンセミナー「これからの摂食嚥下リハビリテーション」｜スポンサードセミナー「指導対策・カスハラ対策にAIを活用 ―診療記録の新しいかたち」
会員口演｜ポスター発表｜スマイルフォトコンテスト｜〔同時開催〕専門セミナー

一般社団法人
日本訪問歯科協会



第26回 日本訪問歯科医学会　プログラム・抄録集
あきらめない 届く訪問歯科医療を目指して ～広げよう 在宅歯科医療の可能性～
プログラム・抄録集　目次

02 日本訪問歯科医学会 学会長 ご挨拶
03 会場案内
05 プログラム
07 参加者の手引き
11 シンポジウム「 在宅患者への訪問歯科診療 」
17 教育講演「 訪問歯科診療における 薬剤関連顎骨壊死（MRONJ）への対応 ～発症予防・早期発見・多職種連携の視点から～ 」
19 特別講演「 認知症と訪問歯科 ―口から守る脳の健康：原因・予防・最新治療と訪問歯科の役割― 」
21 ランチョンセミナー「 これからの 摂食嚥下リハビリテーション 」
23 スポンサードセミナー「 指導対策・カスハラ対策にAIを活用 ―診療記録の新しいかたち 」
24 会 員 口 演
28 ポ ス タ ー 発 表
31 専 門 セ ミ ナ ー
43 出展企業・協賛企業一覧
46 協賛企業 商品のご紹介

ご　挨　拶



日本訪問歯科医学会
学会長 野坂 洋一郎

このたび、2026年11月1日（日）に第26回日本訪問歯科医学会を開催させていただくことになりました。開催にあたり、ご支援・ご協力を賜りました皆様、そしてご参加くださる皆様に、心より御礼申し上げます。

今回のメインテーマは、「あきらめない 届く訪問歯科医療を目指して ～広げよう 在宅歯科医療の可能性～」です。訪問歯科医療の可能性を改めて見つめ直し、必要とする方に歯科医療を届けるために何ができるのかを、ともに考える機会になればと考えております。

プログラムとしては、シンポジウムでは、「在宅患者への訪問歯科診療」というテーマで、日本大学　主任教授の米永一理先生を座長に、政策、医科の在宅医療、患者を取り巻く社会的背景、疾患や病態など、多角的な視点から講演とディスカッションを行っていただきます。

教育講演として、公立能登総合病院 歯科口腔外科 部長 の長谷剛志先生に「訪問歯科診療における薬剤関連顎骨壊死（MRONJ）への対応」というテーマでご講演いただきます。

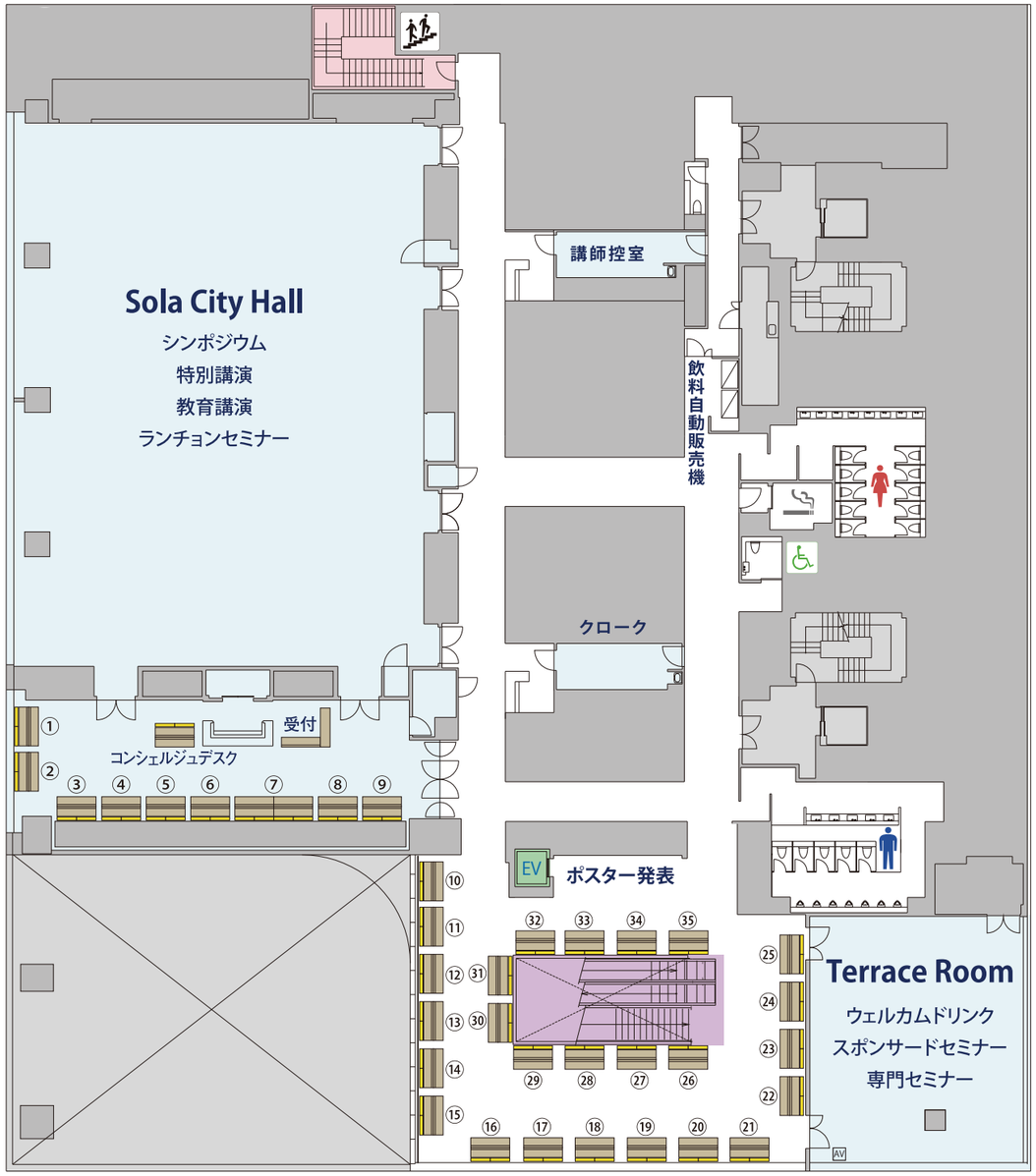
特別講演として、お茶の水健康長寿クリニック 院長の白澤卓二先生に「認知症と訪問歯科」についてお話しいただきます。

また、同時開催セミナーとして、訪問歯科に関する全14セッションの専門セミナーを実施いたします。

さらに、各地域で活動している会員の歯科医院による会員口演・ポスター発表も行うなど、充実した内容となっております。

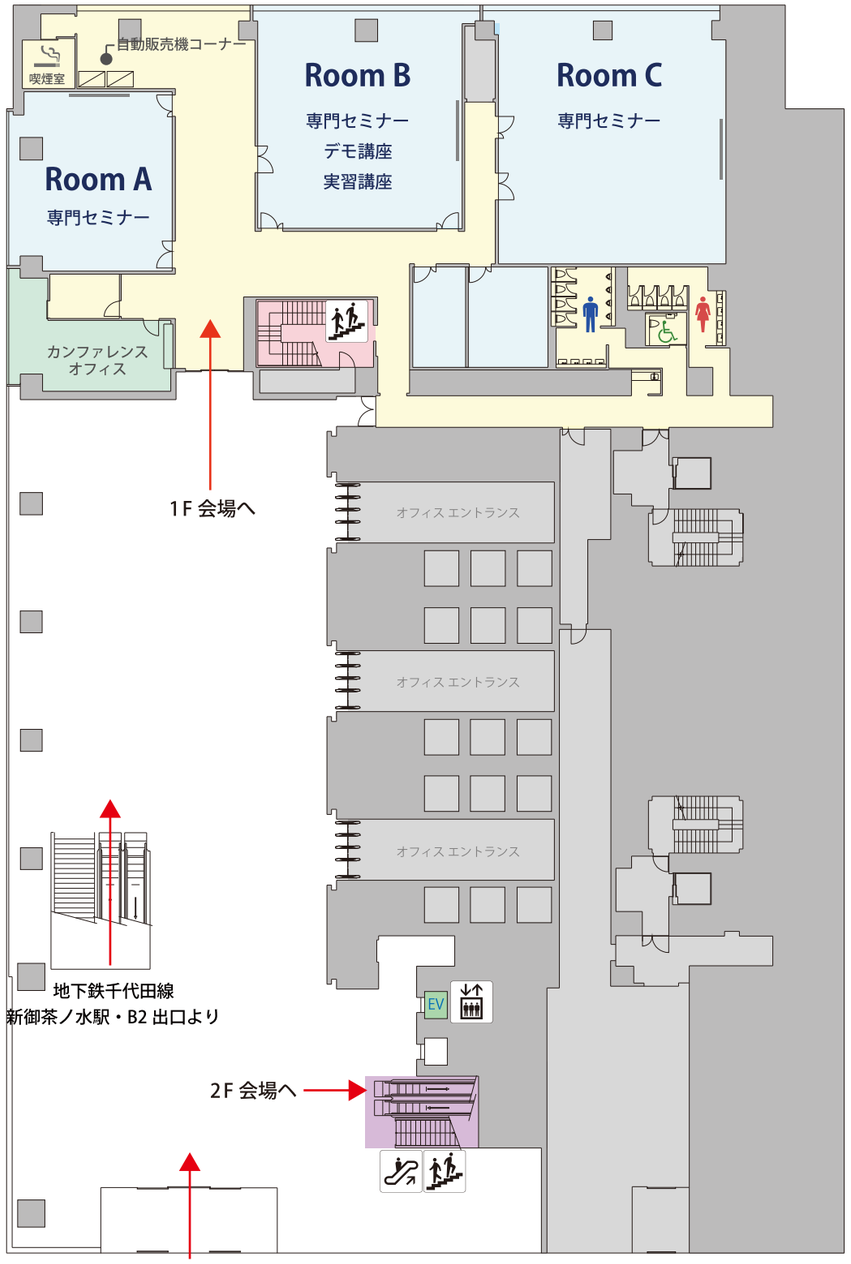
今回の日本訪問歯科医学会が、訪問歯科診療に取り組まれる皆様にとって有意義な学びと交流の場となり、訪問歯科診療のさらなる前進に繋がりますように、皆様のご協力とご参加をよろしくお願い申し上げます。

2F Sola City Hall・Terrace Room



は出展ブースになります。詳細は43,44ページをご覧ください。

1F Room A・B・C



第26回 日本訪問歯科医学会 プログラム

※ プログラムは変更することもございます。予めご了承ください。

	2F ソラシティホール	1F Room A	1F Room B		1F Room C	2F テラスルーム	2F 展示スペース	
8:30			8:30 整理券配布 （詳細はP10参照）					8:30
9:00	9:00～9:30 第27回日本訪問歯科協会 総会					8:45～9:15 ウェルカムドリンク提供（100杯分）		9:00
9:30		9:30～10:15【専門セミナー】 45分でわかる! 訪問歯科 医療保険のキホン 伊藤 友記 氏	9:30～10:15【VEデモ講座】 歯科訪問診療におけるVEの有用性 大久保 正彦 氏 《定員 40名》		9:30～10:15【専門セミナー】 むせない誤嚥、開口できない、痰を喀出できない 訪問歯科における神経疾患患者の見逃せない危険サイン 冨田　聡 氏	9:30～10:15【専門セミナー】 実践ミールラウンドセミナー 阪口 英夫 氏		9:30
10:00	10:15～10:30 開会式							10:00
10:30	10:30～11:50【シンポジウム】 在宅患者への訪問歯科診療 ［座　　長］ ［シンポジスト］米永 一理 氏 吉田 一生 氏 齋藤 慶子 氏 髙瀬 義昌 氏	10:45～11:30【専門セミナー】 45分でわかる! 訪問歯科 介護保険のキホン 小林 喜明 氏	10:45～11:45【実習講座】 口腔内からアプローチする 表情筋マッサージ 平松 満紀美 氏 《定員 40名》		10:45～11:30【専門セミナー】 口腔衛生管理・口腔機能低下症 大野 友久 氏	10:45～11:30【専門セミナー】 食べるにこだわる高齢者への 訪問義歯診療 鈴木 宏樹 氏	企 業 出 展 ポスター発表 スマイルフォト コンテスト	10:30
11:00								11:00
11:30								11:30
12:00	12:10～12:50【ランチョンセミナー】 これからの摂食嚥下リハビリテーション 戸原　玄 氏 協賛：株式会社吉野家							12:00
12:30								12:30
13:00	13:00～14:00【教育講演】 訪問歯科診療における 薬剤関連顎骨壊死（MRONJ）への対応 ～発症予防・早期発見・多職種連携の視点から～ 長谷 剛志 氏	13:00～13:45【専門セミナー】 デジタル技術が変える義歯製作 守口 憲三 氏 / 守口　和 氏	13:00～14:00【実習講座】 効果的な口腔清拭を体感しよう! ～ガーゼを使った口腔ケア方法～ 和田 ひとみ 氏 《定員 40名》		13:00～13:45【専門セミナー】 歯科医療者だからできる 摂食嚥下リハビリテーション 谷口 裕重 氏	13:00～13:45【専門セミナー】 訪問歯科で診る口腔粘膜 『これって何？』から考える見方と対応 今井 美季子 氏		13:00
13:30								13:30
14:00							14:00～14:15 ポスター審査 14:20 フォト投票締切	14:00
14:30	14:15～15:15【特別講演】 認知症と訪問歯科 ―口から守る脳の健康：原因・予防・最新治療と訪問歯科の役割― 白澤 卓二 氏	14:15～15:00【専門セミナー】 訪問歯科の効率化ツール ―手間と時間を減らすツール活用のポイント― 迫　克博 氏	14:15～15:15【実習講座】 スポンジブラシを 効果的に使いこなすコツ 齋藤 しのぶ 氏 《定員 40名》		14:15～15:00 会員口演	14:15～15:00【スポンサードセミナー】 指導対策・カスハラ対策にAIを活用 ― 診療記録の新しいかたち 池川 裕子 氏 / 辻　和久 氏 協賛：株式会社パルシベイト		14:30
15:00								15:00
	15:15～ 表彰・閉会式							

参 加 者 の 手 引 き

■ 入場証について

● 受付での提示

受付は2階にあります。受付でQRコードをリーダーで読み取り、事前に参加登録いただいた情報と照合します。
確認が取れましたら、入場証とホルダーをお渡しいたします。入場証がないと会場に入れませんので、会期中は常に身に着けてください。入場証を入れるホルダーは返却不要です。終了後はお持ち帰りください。

● 展示ブースでの提示

各展示ブースのスキャナに入場証のQRコードを読み込ませると、後日、その企業から製品の案内を受け取ることができます。
そのため、QRコードを読み込ませた展示ブースの企業には、医学会お申込時の登録情報（氏名、医院名、郵便番号、住所、職種名、TEL番号、Emailアドレス）が当該出展者に提供されますので、予めご了承ください。

● 特別実習講座パス（特別パス）をお持ちの方へ

デモ・実習講座は1階 RoomBで開催します。特別パスをお持ちの方は、整理券なしで優先的にご入場いただけます。
入室時に入場証をご提示ください。
なお、各講座の開始10分前からは一般参加者も入室されます。特別パスをお持ちの方は、開始10分前までにご入室ください。それ以降もご入室いただけますが、お席を確保できない場合がございますので、あらかじめご了承ください。

■ クロークについて

クロークは2階にあります。大きな荷物は会場内に置けませんので、クロークへお預けください。
なお、貴重品はお預かりできませんので、予めご了承ください。

■ コーヒーサービスについて

2階のテラスルームでは、8時15分から9時15分まで、温かいコーヒーとお菓子を用意しております。
受付の混雑を避けるためにお早めにご来場くださった方は、受付手続き後にお召し上がりください。
当サービスはセルフサービスです。
コーヒーをお召し上がりの際は、テラスルーム内の席または、2階通路のソファー等をご利用ください。

※ コーヒーとお菓子の数には限りがありますので、ご了承ください

■ スライド集の販売について

購入をご希望の場合は、2階受付横のコンシェルジュデスクにお声がけください。

● メインプログラム分：7,800円（税込）　● 専門セミナー分：9,800円（税込）

● お支払方法は、クレジットカード（Visa、Mastercard、American Express、Diners、JCB、Discover）やQRコード決済（楽天ペイ、d払い、au PAY、メルペイ、LINE Payなど）がご利用いただけます。

■ 避難経路について

P3～4の会場案内をご確認ください。

■ 快適な環境のために

- 会場内の撮影、録音は固くお断りいたします。
- 携帯電話はマナーモードか電源をお切りください。
- 講演中のパソコンの操作はご遠慮ください。
  キーボードの音が気になる方がいらっしゃいます。
- 講演・講義中の私語はご遠慮ください。
- ごみは会場内の所定のゴミ箱にお入れください。
- 館内は禁煙です。所定の喫煙所をご利用ください。

■ 受講に際して

● メイン会場（2階 ソラシティホール）

〔 開　場 〕
9時30分からご入場いただけます。9時30分までは、日本訪問歯科協会の総会が行われています。
そのため、医学会の開場時間までは正会員以外はご入場いただけませんので、予めご了承ください。

〔 座　席 〕
前方の席にはテーブルを設置しており、後方は椅子だけの席になっています。

〔 講師への質問 〕
座長から指名された方は、会場内のスタンドマイクの位置でご発言ください。

● 専門セミナー会場（1階 Room A、B、C / 2階 テラスルーム）

〔 開　場 〕
各セミナーの開場時刻は、セミナー開始時刻の10分前です。

〔 座　席 〕
安全管理のため、各セミナー会場とも定員に達し次第、入場を制限させていただきます。ご了承ください。

〔 講師への質問 〕
ご質問のある方は挙手をお願いいたします。
講師または司会者から指名されましたらご発言ください。会場によってはマイクをお渡しいたします。

■ お弁当について

● お渡し

12時から、2階のメイン会場（ソラシティホール）入口の受付とクローク前でお弁当とお茶をお渡しいたします。
お弁当を希望されると事前連絡をされた方のみお受け取りください。

● お弁当を召し上がる場所

ランチョンセミナーの会場（ソラシティホール）でお召し上がりください。
ロビーでのお食事は通行の妨げとなりますのでご遠慮ください。

● 食べ終わった容器

お手数をおかけしますが、設置してあるお弁当箱専用の返却箱にお入れください。

■ アンケートについて

医学会終了後に、アンケートにお答えください。
このアンケートをもって参加の証となり、研修ポイントが付与されます。
アンケート用のQRコードは、医学会当日、メイン会場の最終講演の後にスクリーンに表示されます。

■ その他

● インターネット環境について

各会場にWi-Fiが設置されています。接続先とパスワードは以下のとおりです。

	会　場	接続先
2階	Hall WEST	SCCC_Hall_West
	Hall EAST	SCCC_Hall_East
	Terrace Room	SCCC_TerraceRoom
1階	Room A	SCCC_RoomA
	Room B	SCCC_RoomB
	Room C	SCCC_RoomC
全会場共通パスワード	solacity01（ゼロ・イチ）※すべて小文字	

● 記録について

主催者が記録した医学会、専門セミナーの映像、写真、記事などの記録は主催者に帰属します。この記録のメディアへの掲載権は主催者が有します。写真・映像掲載などに問題がある場合はスタッフにお申し出ください。

● 館内施設について

館内にはお手洗いのほか、自動販売機、喫煙所がございます。場所はP3～4の会場内案内でご確認ください。

● インスタスポットについて

1階エスカレーター近くに、日本訪問歯科医学会のご参加の記念撮影用のインスタスポットをご用意しております。

● 駐車場について

有料駐車場が地下2階にあります。お支払い方法は現金のみで、クレジットカードはご利用いただけません。
また、当医学会の利用者割引はありませんので、予めご了承ください。

● 近隣情報

コンビニエンスストアは地下1階にあります。1階からの下りエスカレーターをご利用ください。

● アーカイブの視聴について

当日ご来場された方を対象に、収録動画を順次公開いたします。各講座1週間ご視聴いただけます。また、視聴方法はメールでご案内いたします。医学会のすべての講座をご視聴いただけますが、内容の大幅なカットや編集がおこなわれる可能性がありますので、予めご了承ください。

デモ講座・実習講座の整理券配布について

《無料・当日先着順》

デモ講座・実習講座では、着席でのご参加には整理券が必要です

■ 整理券配布

〔配布開始〕8:30
〔配布方法〕無料・先着順
〔配布枚数〕なくなり次第終了
〔配布場所〕当日、総合受付でご案内いたします

■ お受け取りについて

- 整理券のお受け取りには、総合受付で発行される入場証の提示が必要です。
  入場証をお持ちでない方は、先に総合受付で受付をお済ませください。
- お一人で複数講座分の整理券をお受け取りいただけます。
- 必ず参加者ご本人がお受け取りください（代理でのお受け取りはできません）。

■ デモ講座・実習講座への立見でのご参加について

- 特別実習講座パスまたは整理券をお持ちでない方は、立見でご参加いただけます。
- 会場の混雑状況により入室をご遠慮いただく場合がございます。
  ご入室いただけなかった場合は、後日配信するアーカイブ動画をご視聴ください。

■ 特別実習講座パス（特別パス）をお持ちの方へ

- 特別パスをお持ちの方は整理券不要です。入室時に入場証をご提示ください。

《 2027年11月7日（日）開催　第27回日本訪問歯科医学会 》

会場は、今回と同じく、御茶ノ水ソラシティカンファレンスセンターです。
詳細は決まり次第、日本訪問歯科協会のウェブサイト等でご案内いたします。
ぜひご予定にお加えくださいますようお願いいたします。

シンポジウム

〔 10:30－11:50 | 2F ソラシティホール 〕

在宅患者への訪問歯科診療

座　　長	**米永 一理** 氏 日本大学歯学部 摂食機能療法学講座 主任教授
シンポジスト	**吉田 一生** 氏 厚生労働省大臣官房審議官
	齋藤 慶子 氏 日本医療ソーシャルワーカー協会 副会長
	髙瀬 義昌 氏 たかせクリニック 理事長



座 長

米永 一理 氏

日本大学歯学部摂食機能療法学講座 主任教授
日本大学医学部内科学系総合診療学分野 兼担教授
日本大学歯学部付属歯科病院 副病院長

歯科医療においては訪問歯科診療の体制整備が進められてきましたが、施設入所者への訪問歯科診療が一定程度普及している一方、在宅患者への歯科医療の提供はいまだ十分とは言えません。

在宅患者は複数の疾患や障害を抱えていることも多く、歯科医療へのアクセスには、患者の病態のみならず、家族・介護者の状況、医療・介護職との連携、地域の医療資源、さらには制度や社会的背景など、さまざまな要因を踏まえた対応が必要となります。

そこで本シンポジウムでは、行政・政策の立場から吉田一生先生（厚生労働省大臣官房審議官）、在宅医療を担う医師の立場から髙瀬義昌先生（たかせクリニック理事長）、多職種・社会的背景の立場から齋藤慶子先生（日本医療ソーシャルワーカー協会副会長）に、それぞれの視点からお話しいただき、患者の疾患・病態の立場からは米永一理（日本大学歯学部）が話題を提供します。

その上で、在宅患者に必要な歯科医療をどのように届けるか、その課題を整理し、明日からの訪問歯科診療の改善につながる議論を行いたいと思います。

多くの皆様に会場にてお会いできますと幸いです。

在宅患者の疾患・病態から考える訪問歯科診療の役割
～ 健康寿命の延伸を見据えた取り組み ～

現在、高齢者施設入所者に対する訪問歯科介入は一定程度普及してきている一方で、在宅療養患者に対する訪問歯科介入は、いまだ十分とは言えない。

在宅患者の増加に伴い、訪問歯科診療に求められる役割も変化している。在宅患者の多くは、複数の疾患を抱え、さらにフレイル、サルコペニア、イートロス、低栄養、ポリファーマシーなどが複雑に絡み合った状態にある。そのため、在宅での歯科診療では、口腔内の疾病への対応にとどまらず、患者の全身状態、生活機能、療養環境を踏まえた包括的な視点が不可欠である。

とりわけ「食べる」機能は、在宅療養を継続するうえで重要な意味を持つ。口腔機能低下は、食事摂取量の減少や低栄養を招き、全身疾患の進行や薬物療法、活動性の低下もまた、口腔機能に影響を及ぼす。すなわち、在宅患者の口腔と全身が相互に影響し合うことを踏まえ、老年症候群を包括的に捉えた介入が求められている。

また、こうした患者を支えることは、多職種連携の推進のみならず、患者・家族や他職種に対する健康教育の機会にもなる。健康寿命の延伸や、患者・家族を含む社会全体の健康リテラシー向上は、少子高齢社会を迎えたわが国において重要な取り組みである。そのためにも、疾患の予後や治療方針、栄養状態、服薬内容、生活背景などを適切に把握し、「何を治すか」だけではなく、「どのように食べ、

どのように生活するか」という視点を、歯科から患者・家族・他職種へ共有することが求められる。

本講演では、在宅患者に多くみられる疾患・病態と口腔との関連を整理し、摂食嚥下・栄養管理を含めた訪問歯科診療の役割について概説する。さらに、医科と歯科が互いの専門性を活かしながら、在宅患者の「食べる」と生活を支えるための医市連携（いしれんけい）のあり方についてまとめる。

〔参考文献〕
日本歯科医師会雑誌 77(8):611-621, 2024;東京都歯科医師会雑誌 73(7):295-299, 2025.

プロフィール

〔略　歴〕

鹿児島大学歯学部、東海大学医学部卒業
2015年　東京大学医学部附属病院顎口腔外科・歯科矯正歯科 助教
2017年　十和田市立中央病院総合内科 医員
2018年　JR東京総合病院総合診療科 医長（科長）
2020年　東京大学大学院医学系研究科イートロス医学講座 特任准教授
2023年　日本大学歯学部口腔外科学会第Ⅱ講座 臨床教授
2024年　日本大学歯学部摂食機能療法学講座 主任教授（現職）
　　東京大学医学部老年病学 非常勤講師（兼任、現職）
2026年　日本大学歯学部付属歯科病院 副病院長（現職）
　　日本大学医学部内科学系総合診療学分野 兼担教授（現職）

〔主な委員会等〕
- 日本口腔医学会 理事長
- 日本大学歯学会 常任理事
- 鹿児島大学歯学部同窓会 副会長
- 国際口腔ケア学会 理事 / 日本口腔ケア学会 理事 / 口腔ケアアンバサダー委員会 委員長
- 日本歯科保健医療国際協力学会 理事

〔主な資格等〕
- 医師 / 歯科医師 博士（医学）（東京大学）
- 日本内科学会認定内科医
- 日本専門医機構認定総合診療専門医 / 専門研修指導医 / プログラム統括責任者
- 日本プライマリ・ケア連合学会認定医 / 指導医
- 日本抗加齢医学会認定専門医 / 指導医
- 日本病院総合診療医学会認定病院総合診療医 / 特任指導医
- 日本がん治療認定医機構がん治療認定医 / 指導責任者
- 日本医師会認定産業医
- 日本再生医療学会認定医
- 日本口腔外科学会認定医
- 日本口腔科学会認定医 / 指導医
- 日本有病者歯科医療学会認定専門医 / 指導医
- 日本口腔内科学会指導医
- 日本口腔ケア学会認知病院総合歯科医師指導医
- 日本歯科保健医療国際協力学会歯学系外国人指導者
- 認知症サポート医 / 難病指定医
- 医師臨床研修指導医 / 歯科医師臨床研修指導歯科医　他

シンポジスト
吉田 一生 氏
厚生労働省大臣官房審議官



在宅患者への訪問歯科診療における課題

2025年をターゲットとして地域の医療提供体制の将来のあるべき姿を描くとされた地域医療構想は、病床の機能分化・連携や、病床数の議論に終始した。急性期、回復期、慢性期の流れを作ることも重要だが、それだけでは「治し支える医療」を実現することはできない。また、なにより患者にとっては日常的な疾病に対応する医療こそが「川上」であり、入院医療が「川下」であって、かつ、その流れは決して一方向ではなく、在宅を中心に、入退院を繰り返し、そして、最後は看取りを要することとなる。

2040年に向けた新たな地域医療構想については、85歳以上高齢者が増加するとともに、供給面での担い手不足が顕在化するという厳しい局面を迎えていくことを踏まえ、病床（入院）中心の現行構想から、その名の通り、地域医療全体を視野に入れた外来・在宅医療、介護との連携を含むビジョンにアップデートしていく必要がある。

ポイントは、需要増大が特に見込まれる在宅医療である。在宅医療の需要等も踏まえながら、在宅医療を支える医療機関、歯科医療機関、訪問看護事業所、地域連携薬局を含む薬局、高齢者施設等の関係機関等とともに、地域で面として在宅医療の提供を支える体制の整備を進めることが必要である。

訪問歯科診療については、人口規模の小さな市町村において、訪問歯科診療を主体的に担う在宅療養支援歯科診療所がない地域も存在している。歯科を標榜する病院では、近年、有病者や全身的な管理が必要な高齢者の治療や口腔機能管理とともに訪問歯科診療を行う病院が出てきている。

今後、地域の実情を踏まえ、歯科診療所間や歯科診療所と歯科を標榜する病院など、歯科医療機関が連携し、訪問歯科診療を提供できる体制整備を検討することが求められ、面的連携を含む歯科医療提供体制の構築に向けた都道府県の主体的な取組促進が課題となる。

プロフィール

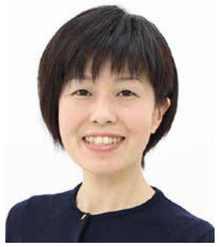
〔経　歴〕

1996年　厚生省入省
2007年　三重県健康福祉部 長寿社会室長〈2010年まで〉
2013年　大臣官房企画官（老健局・医療介護連携担当）
2014年　大臣秘書官〈2017年まで〉
2017年　大臣官房広報室長
2018年　年金局企業年金・個人年金課長
2021年　大臣官房参事官（救急・周産期・災害医療等担当）
2022年　大分県副知事〈2024年まで〉
2024年　厚生労働省健康・生活衛生局総務課長
2025年　厚生労働省大臣官房会計課長
2026年　大臣官房審議官
　　（医政、口腔健康管理、精神保健医療、健康、生活衛生、災害対策担当）

シンポジスト

齋藤 慶子 氏

公益社団法人日本医療ソーシャルワーカー協会 副会長
医療法人社団ゆみの 在宅療養支援室 室長



在宅療養患者の生活を支える訪問歯科診療

― その人らしい暮らしを支える医療ソーシャルワーカーの役割―

在宅で過ごす患者の療養生活を支えるためには、疾病に加え、心理・社会的課題や経済的課題の有無、頼れる家族の有無や住環境、さらには居住地域の社会資源や地域文化など、一人ひとり異なる社会的背景を踏まえて支援体制を整える必要がある。そのためには、患者がどのような人生を送り、どのような暮らしを望んでいるのかを理解し、LIFE（人生・生活・生命）の視点に立って、多施設多職種からなる医療ケアチームが連携して支援することが重要である。

医療ソーシャルワーカー（以下、MSW）は、患者・家族との対話を通して本人が望む人生や暮らしをともに考え、その自己実現を支援する役割を担う。そのため、心理・社会的状況や経済状況、家族関係、生活環境などを総合的に捉え、必要な制度や社会資源の活用を支援するとともに、多施設多職種をつなぎ、患者の意向を医療ケアチームと共有している。

筆者が所属する法人は、東京・大阪・愛媛・福岡に拠点を置き、年間4,000名を超える患者に在宅医療を提供している。MSWは、患者が安心して療養生活を送れるよう、本人の意向を踏まえた環境調整や医療ケアチームの構築に取り組んでいる。具体的には、1）在宅医療の導入時に患者・家族の思いを確認する、2）院内の多職種と情報を共有し、支援の方向性を検討する、3）患者の意向を多施設多職種で支えるためのチームづくりを行う、などの実践が挙げられる。情報共有には、対面またはオンラインによるサービス担当者会議に加え、ICTを活用したリアルタイムの連携も取り入れている。医療と介護の連携が進む一方で、医科と歯科の連携は、いまだ十分とは言い難い。

本セッションでは、当法人における在宅療養支援の実践を紹介するとともに、歯科を含む多施設多職種が、患者の望む暮らしや自己実現を支えるチームとなるために、MSWが果たす役割を報告する。

プロフィール

〔 経　歴 〕
2008年3月　立教大学コミュニティ福祉学部卒業（社会人編入学）
2008年4月　筑波大学附属病院
2014年4月　東京大学医科学研究所附属病院
2015年4月　医療法人社団ゆみの
　　現在に至る

〔 資　格 〕
2008年3月　社会福祉士取得
2014年3月　精神保健福祉士取得

〔 役　員 〕
- 一般社団法人日本在宅医療連合学会 評議員
- チーム医療推進協議会 理事

シンポジスト

髙瀬 義昌 氏

たかせクリニック 理事長



在宅医療現場における訪問歯科との連携

― 高齢者が健康に自分らしく暮らすために―

老年精神医学を中心とした在宅医療の現場では、認知症を有する高齢者の食事摂取量が低下した際、認知症の進行や老衰などを考慮し、今後の療養方針について家族と相談することがある。一方で、食事摂取量の低下には、口腔内の問題や咀嚼・嚥下機能の低下など、さまざまな要因が関与している可能性がある。食べられなくなった原因を認知症の進行や加齢による変化として捉えるだけでなく、口腔の状態を含めて多角的に評価することが重要である。

在宅医療では、感染症予防、脳卒中予防、骨粗鬆症治療、栄養管理、脱水予防など、全身状態の維持を重視している。しかし、食事摂取量が低下した際、嚥下機能や全身状態の評価を行う一方で、口腔内の評価や歯科への相談が十分に行われているかについては、改めて考える必要がある。また、認知症高齢者では、本人の理解や協力を得ることが難しい場合もあり、状態に応じた支援が求められる。

低栄養は身体機能や生活機能の低下につながり、認知機能の低下とも相互に影響し合う可能性がある。こうした悪循環を防ぎ、高齢者が住み慣れた地域で自分らしく生活を続けるためには、医科と歯科がそれぞれの専門性を生かし、早期から連携することが重要と考える。

本発表では、在宅医療を担う医師の立場から、認知症高齢者の食支援における現状を紹介し、食事摂取量が低下した際の歯科への相談や介入のタイミング、医科と歯科の情報共有のあり方について問題提起する。高齢者の「食べる」を支え、療養生活の質を維持するために、医科と歯科がどのように連携できるのか、皆様とともに考えたい。

プロフィール

〔 略　歴 〕
1984年　信州大学医学部卒業
2004年　たかせクリニック開設
2012年　東京医科大学大学院医学研究科 博士課程修了

〔 専門医・認定医 〕
- 日本老年精神医学会 専門医
- 日本プライマリ・ケア連合学会 認定医

〔 主な役職 〕
- 医療法人社団 至高会 たかせクリニック 理事長
- 昭和医科大学 客員教授
- 東京医科大学 地域医療指導教授
- 蒲田医師会 理事
- 日本在宅医療連合学会 評議員
- 東京都医師会 認知症サポート医連絡協議会 副委員長
- 公益財団法人 日米医学医療交流財団 会長
- 特定非営利活動法人 オレンジアクト 理事長

教育講演

〔 13:00－14:00 ｜ 2F ソラシティホール 〕

訪問歯科診療における薬剤関連顎骨壊死（MRONJ）への対応

～発症予防・早期発見・多職種連携の視点から～

講 師　**長谷 剛志** 氏
公立能登総合病院 歯科口腔外科 部長

講 師
長谷 剛志 氏
公立能登総合病院 歯科口腔外科 部長
金沢大学大学院医薬保健学総合研究科外科系医学領域
顎顔面口腔外科学分野 非常勤講師



近年、骨粗鬆症治療薬（ビスホスホネート製剤、デノスマブ）や悪性腫瘍治療薬（骨修飾薬、血管新生阻害薬、免疫調整薬、ロモソズマブなど）の普及に伴い、薬剤関連顎骨壊死（MRONJ）は歯科臨床において看過できない合併症となっている。

2023年に公表された「顎骨壊死検討委員会ポジションペーパー2023」では、従来のARONJという呼称がMRONJに統一されるとともに、①抜歯などの侵襲的処置そのものよりも根尖病変や歯周病など歯性感染の持続がリスク因子として重視されたこと、②抜歯時には原則として骨吸収抑制薬を予防的に休薬しないことが提案されたこと、③骨吸収抑制薬・抗悪性腫瘍薬の投与開始前には原則として全例を歯科スクリーニングの対象とし、医科・歯科・薬剤師の連携を強化することが強調された点が大きな改訂点である。またステージ0～Ⅲの分類と治療方針も見直され、ステージⅡ・Ⅲでは全身状態が許せば外科的治療を優先し、疾患の治癒を目標とすることが明記された。

本講演では、このポジションペーパー2023の骨子を整理したうえで、要介護高齢者や有病者を対象とすることが多い訪問歯科診療の現場における実践的な注意点について解説する。訪問診療では口腔衛生管理が不十分になりやすく感染源が持続しやすいこと、認知機能低下やポリファーマシーにより服薬状況や全身状態の正確な把握が難しいこと、急変時に医科・薬剤師と迅速に連携できる体制の構築が不可欠であること、家族や介護者への説明・口腔ケア指導が治療継続の鍵となることなど、外来診療とは異なる課題が存在する。多職種と情報を共有しながら発症予防と早期発見に努め、発症後も摂食嚥下機能を含む口腔機能を維持するための継続的な口腔管理のあり方について、具体的な症例を交えて考察する。

本講演が、明日からの臨床において薬剤性顎骨壊死・顎骨骨髄炎を有する患者、あるいはそのリスクを有する患者への対応の一助となれば幸いである。

プロフィール

〔 学歴・職歴 〕
2001年　北海道医療大学 歯学部 卒業
2006年　金沢大学大学院 医学系研究科 修了 医学博士
2009年　公立能登総合病院　歯科口腔外科 医長
2015年　同 部長

〔 その他役職 〕
- 金沢大学医学部 外科系医学領域 顎顔面口腔外科学分野 非常勤講師
- 琉球大学医学部 高次機能医科学講座 顎顔面口腔機能再建学分野 非常勤講師
- 北海道医療大学歯学部 口腔構造・機能発育学系 小児歯科学分野 非常勤講師
- 「食力の会」代表
- 市立輪島病院 歯科口腔外科 非常勤医師
- 石川県立田鶴浜高校 衛生看護科 非常勤講師

〔 資　格 〕
- 日本口腔外科学会 専門医
- 日本口腔科学会 認定医・指導医
- 日本老年歯科医学会 専門医・指導医
- 日本老年歯科医学会 摂食機能療法専門歯科医師
- 日本摂食嚥下リハビリテーション学会 認定士

〔 受賞歴 〕
2001年　デンツプライ賞
2006年　日本口腔腫瘍学会 学会賞
2007年　日本口腔科学会 優秀論文賞
2015年　全国国保地域医療学会 優秀研究賞
2019年　日本口腔科学会 学会賞
2025年　日本老年歯科医学会 最優秀ポスター賞
2025年　杉浦地域医療振興賞　など

〔 特　許 〕
第6901724号　食事観察サポートソフト「い～とみる」

特 別 講 演

〔 14:15－15:15 ｜ 2F ソラシティホール 〕

認知症と訪問歯科

―口から守る脳の健康：原因・予防・最新治療と訪問歯科の役割―

講 師　**白澤 卓二** 氏
お茶の水健康長寿クリニック 院長

講 師

白澤 卓二 氏

お茶の水健康長寿クリニック 院長



わが国の認知症高齢者は2022年に約443万人と推計され、2040年には584万人に達するとみられている。2024年には認知症基本法が施行され、認知症の人が住み慣れた場所で暮らし続けられる共生社会づくりが求められている。2024年のランセット委員会報告では、14の修正可能な危険因子への対策により認知症の約45%を予防・遅延できる可能性が示された。また、歯がほとんどなく義歯も使用していない高齢者では認知症の発症リスクが約1.9倍になると報告されており、口腔の健康は認知症予防の重要な鍵である。

本講演ではまず、ブレデセン博士が提唱するリコード法をもとに、アルツハイマー病が単一の原因ではなく、炎症、栄養・ホルモンの不足、重金属やカビなどの毒素を含む36以上の要因によって生じることを解説する。これらの要因の多くは食事、睡眠、運動、ストレスなど日常生活の中に潜んでおり、生活習慣の見直しによって発症リスクを減らすことができる。次に、歯周病菌ポルフィロモナス・ジンジバリスとその毒素ジンジパインがアルツハイマー病患者の脳から検出された研究を紹介し、ジンジパイン阻害剤の臨床試験の現状を踏まえて、口腔から脳を守るという視点を提示する。さらに、ブドウ糖を利用しにくくなった脳の代替エネルギーとしてのケトン体、サイトカインを用いた神経再生の試み、国内で使用が始まった抗アミロイドβ抗体薬についても最新の動向を概説する。

後半では訪問歯科の現場に焦点を当てる。認知症の方は痛みや口腔内の不具合を訴えにくく、口の変化が全身状態の悪化のサインとなることも多い。そこで、認知症の進行度に応じた歯科対応、専門的口腔ケアによる誤嚥性肺炎の予防、拒否のある方への口腔ケアの工夫、医師・介護職・ケアマネジャーなどとの多職種連携について具体的に述べる。「噛める・食べられる」口を最期まで支える訪問歯科の役割を、参加者の皆様と共有したい。

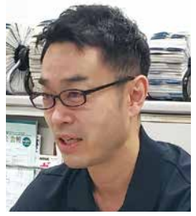
プロフィール

1958年 神奈川県生まれ
1982年 千葉大学医学部卒業後、呼吸器内科に入局し臨床キャリアをスタート
1990年 同大学院医学研究科博士課程修了、医学博士号を取得

病理医・解剖医として30年以上にわたり研究に情熱を注ぐ傍ら、豊富な臨床経験も積み重ねてきた数少ない専門家。基礎免疫学における「炎症」を軸に、神経生理学など幅広い学問領域から病因解析を追及。寿命制御遺伝子（サーチュイン遺伝子）やアルツハイマー病の分子生物学、アスリートの遺伝子研究、サイトカインを用いた再生医療・再生医学の応用を専門とする。

独自のデータ解析・診断技術の開発を通じて先進的な医療を開拓。脳神経疾患をはじめとする多種多様な疾患や難病の治療、医療技術の進歩に寄与することを使命とし、研究と臨床の双方から「人々が健康で豊かな長寿を享受できる社会」の実現を目指して精力的に活動を続けている。

これからの摂食嚥下リハビリテーション



講師 戸原 玄 氏

東京科学大学 大学院医歯学総合研究科 医歯学専攻
老化制御学講座 摂食嚥下リハビリテーション学分野 教授

摂食嚥下というと内視鏡検査を行って訓練をするんだろうというイメージを持つ方がおそらく大半だと思います。研究内容もオーラルフレイルとかそういう評価をするんじゃないかという印象があるでしょう。自分もこのような臨床を始めたころはそれくらいの視野しかありませんでした。しかし、ベーシックなことだけを考えてもそれに終始するものではありません。たとえば口腔や咀嚼に目を向けた場合だとしても、単に最大筋力をみるのが本当に必要なのでしょうか?また、口腔周りの筋肉以外にもたくさん考えることはあります。

つまり近年摂食嚥下関連の研究はさらに発展しているといえます。介入の必要性や臨床の基本的な部分もご紹介いたしますが、またQOL、新たな口腔内装置、腸内細菌、新しい機器の開発などなるべく新しいものをできるだけご紹介したいと思います。

その他、いったん胃ろうになっても楽しみとして口から食べられるようにリハビリをすることで、その後外出を楽しむなどの時間が過ごせるようになることもあります。つまり単に食べるということだけではなく外食を通じて外出する、ということです。そのようなリハビリに対応している医療機関は我々が開発した摂食嚥下関連医療資源マップ（http://www.swallowing.link/）で探すことができますし、医療機関のみならず食べやすさに配慮した食事を提供する飲食店情報も載せているので、そのような情報も積極的にお使いいただければと思います。

更に、そのような視点を持つために意識すべきことなどについてもご紹介できればと思います。

プロフィール

〔 学歴・職歴 〕

1997年　　東京医科歯科大学歯学部歯学科卒業
1998－2002年 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科老化制御学系専攻高齢者歯科学分野大学院
1999－2000年 藤田保健衛生大学医学部リハビリテーション医学講座研究生
2001－2002年 ジョンズホプキンス大学医学部リハビリテーション科研究生
2003－2004年 東京医科歯科大学歯学部附属病院高齢者歯科 医員
2005－2007年 東京医科歯科大学歯学部附属病院高齢者歯科 助手
　　東京医科歯科大学歯学部附属病院摂食リハビリテーション外来 外来医長
2008－2013年 日本大学歯学部摂食機能療法学講座 准教授
2013－2019年 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科老化制御学系口腔老化制御学講座高齢者歯科学分野 准教授
2020－2024年 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科医歯学系専攻老化制御学講座摂食嚥下リハビリテーション学分野 教授
2024年－　　東京科学大学大学院医歯学総合研究科医歯学系専攻老化制御学講座摂食嚥下リハビリテーション学分野 教授

〔 受　賞 〕

●日本顎口腔機能学会学術大会優秀賞（2024, 2023年）●日本摂食嚥下リハビリテーション学会優秀論文賞（2023年）
●老年歯科医学会賞（2021年）●日本摂食嚥下リハビリテーション学会論文賞（2009年, 2023年）　他

〔 理　事 〕

●日本老年歯科医学会（常任理事・高齢者歯科医療委員会委員長・摂食嚥下リハビリテーション委員会委員長）
●日本摂食嚥下リハビリテーション学会（表彰委員会委員長・教育委員・ホームページ担当委員会委員長）●日本老年学会　他

吉野家 YOSHINOYA
ユニバーサルデザインフード 舌でつぶせる
食べ応えアップ!
お米も入ってしっかり栄養補給。
新発売
吉野家のやさしいごはん®
やわらか牛おかゆ
ユニバーサルデザインフード
舌でつぶせる
1袋あたり 167kcal
1袋あたり食塩相当量 1.2g
温めなくてもそのまま召し上がれます♪
吉野家の介護食品、他ラインナップも好評発売中♪
吉野家のやさしいごはん® やわらか牛丼の具 ユニバーサルデザインフード 歯ぐきでつぶせる
吉野家のやさしいごはん® きざみ牛丼の具 ユニバーサルデザインフード 舌でつぶせる
吉野家のやさしいごはん® やわらか親子丼の具 ユニバーサルデザインフード 容易にかめる
UDF（ユニバーサルデザインフード）とは…日常の食事から介護食まで幅広くお使いいただける、食べやすさに配慮した食品です。
その種類も様々で、レトルト食品や冷凍食品などの調理加工食品をはじめ、飲み物やお食事にとろみをつける「とろみ調整食品」などがあります。

スポンサードセミナー 〔 14:15－15:00 | 2F テラスルーム 〕

指導対策・カスハラ対策にAIを活用
―診療記録の新しいかたち

講 師
池川 裕子 氏
歯科医師



講 師
辻　和久 氏
株式会社パルシベイト
代表取締役



診療を終えた後、カルテの記載にどれくらいの時間を使っていますか。訪問先で交わした説明や患者・家族の言葉を、後から思い出しながら記録することもあるのではないでしょうか。

「診療後の記録に時間がかかる」「説明した内容を後から確認したい」と感じる場面も少なくありません。指導への備えやカスタマーハラスメントへの対応を考えるうえでも、診療経過を振り返ることのできる記録が重要です。ただ、日々の記録をもう少し楽に、そして、必要なときに診療の経過を振り返れるものにできないか。今回は、訪問歯科の現場から、その方法を考えていきます。

本講演では、訪問歯科診療に従事する池川裕子先生と、AIカルテ作成支援「Swift SOAP」を開発する辻和久氏が、対談形式で記録業務の実際とAIの活用方法を紹介します。普段どのように記録しているのか、AIの導入で何が変わったのか、生成された文章にはどの程度の修正が必要なのか。現場の率直な声を交えながら、歯科医師と患者の模擬会話を通じ、SOAPの下書き作成から確認・修正、PCへの転記までを実演します。

さらに、日々の記録を指導への備えやカスタマーハラスメント対策にどう生かせるかについても取り上げます。診療時の音声を残すことの意義や、説明内容・対応経過を確認する際の活用方法、音声の保存期間やプライバシーに配慮した運用を、現場の視点で考えます。

患者と向き合う時間を大切にしながら、記録の充実とスタッフの安心をどう支えるか。明日からの訪問歯科診療に取り入れられる、診療記録の新しいかたちを一緒に探っていきましょう。

プロフィール

池川 裕子 氏
歯科医師

〔 学歴・職歴 〕
2008年　松本歯科大学 卒業
2009年　神奈川歯科大学 研修修了
2018年　出張歯科四つ木 勤務

〔 理事ほか 〕
- 東京歯科保険医協会 理事
- 葛飾医介塾 塾長
- 在宅歯科カレッジ

大学時代に障がい者歯科を学んだ経験と知識を生かし、卒業後は10年にわたって訪問歯科診療に従事。現在は在宅歯科診療をメインに、高齢者を中心とした訪問歯科の患者の治療を行っている。ケアマネを含め介護関係者から強い信頼があり、任された施設は20個所以上、在宅診療は年間100件以上。「最後まで自分の歯で食べること」を重視し、患者の持病・主訴・生活環境などを考慮した臨機応変な治療がモットー。訪問歯科の認知を高める取り組みや、訪問歯科医同士の連携にも力を入れるなど、お一人お一人が最後までその人らしく生きていただけるかを日々模索している。

プロフィール

辻　和久 氏
株式会社パルシベイト 代表取締役

〔 略　歴 〕
株式会社NTTドコモにて、5G / AIに係る国家プロジェクトを主導。
病院インフラ構築・医療DXの経験を武器に株式会社パルシベイトを創業。
AIカルテ作成 - Swift SOAPによる現場効率化と現場起点の経営改善を推進。

会 員 口 演 1
〔14:15－15:00 | 1F Room C 〕

医療法人甦歯会 もりかわ歯科志紀診療所 理事
森川　眞紀 氏

当院における急性期病院との医科歯科連携の取り組み
～急性期連携から見えた外来段階での予防的支援の重要性～

背景と目的

超高齢社会において、入院中から退院後の在宅療養まで「切れ目のない口腔管理」が求められています。当院では今年6月の診療報酬改定を機に、急性期病院と医科歯科連携の契約を締結し、入院中の口腔ケアから退院後の訪問診療へのスムーズな移行に取り組んできました。

取り組みと課題の改善

連携を始める中で、「依頼窓口の曖昧さ」「診療情報の不足」「介入時期のズレ」「職種間での認識の違い」といった現場の課題が明らかになりました。これらに対し、連絡窓口の統一、共通の依頼・報告書面の作成、定期的な情報共有、役割分担の明確化を行い、円滑な連携体制へと改善を図りました。

考察と提案

外来・入院・在宅と一貫して患者様の口腔内を観察することで、外来の段階からの「口腔機能評価」「セルフケア・家族への指導」「早期の訪問診療への準備」の重要性を再認識しました。本取り組みの経験をもとに、外来で取り組むべき予防的支援と、地域と病院をつなぐ歯科の役割について提案します。



プロフィール

〔 略　歴 〕
1991年　大阪歯科大学卒業
2015年　訪問開始

会 員 口 演 2

〔14:30－15:00 | 1F Room C 〕

花ばたけ歯科医院
正畠　昌幸 氏

「歯科医院のM&A事業継承」
正畠歯科譲渡のリアルとみらいへの選択

地域の医療インフラとして親しまれてきた正畠歯科の経営権を、この度M&A（第三者継承）により譲渡しました。

近年、歯科業界のおいては、高齢化に伴う後継者不足や経営環境の変化、設備の高度化、働き方改革への対応として、医院としての経営維持に新たな課題が生じています。

そうした中、当院がなぜ親族内継承や廃院ではなく「M&Aによる事業継承」という決断に至ったのか、その背景とプロセスについて講演します。



プロフィール

〔 略　歴 〕

1960年　岡山県倉敷市生まれ
1985年　岐阜歯科大学（現・朝日大学歯学部）卒業
　　岡山大学歯学部第二補綴科入局
1987年　正畠歯科医院（父の医院）に勤務
2003年　倉敷市中央2丁目にて開院
2026年　9月にM&Aにて医院譲渡

会 員 口 演 3

〔14:30－15:00 | 1F Room C 〕

医療法人九州恵会 上田歯科医院
上田　倫生 氏

施設入所者における口腔機能低下症の6ヶ月再評価と継続的口腔衛生リハビリテーションの介入効果

目　的

多様な疾患や残存歯数を有する施設高齢者に対し継続的な口腔衛生リハビリテーションを実施し、口腔機能低下症の6ヶ月再評価から介入効果および施設特性に応じた評価手法を検証した。

方　法

老健70名、特養40名（計110名、平均85．1歳）を対象に、月2回の歯科医師リハ、月4回の専門的ケア、毎日の機能訓練を実施。介入前後に6項目（衛生・湿潤・舌圧・咬合圧・ODK・歯数）を評価した。

結　果

該当率は84．5%から71．8%へ減少し、該当項目数も3．8から3．1項目へ有意に減少した。TCI（改善72%）や湿潤度（改善65%）の可塑性が高かった一方、舌圧・咬合圧・ODKは8割以上で維持以上を達成した。老健では運動機能改善、特養では衛生改善と機能維持が顕著であった。指示理解低下群の運動検査完遂率は約62%であったが、模倣動作等の工夫で向上した。

結　語

環境面は「改善」、機能面は加齢・廃用下の「維持」を主成果と捉えるべきである。施設特性や認知機能に応じた目標設定と、6ヶ月定期再評価サイクルの定着が有用である。



プロフィール

〔 学歴・職歴 〕

昭和60年3月　日本歯科大学 卒業
昭和63年　　上田歯科医院 開院
平成 元 年8月　医療法人恵会（現・九州恵会）設立、同理事長に就任
平成16年5月　長崎大学大学院 卒業（歯学博士号取得）
平成 8 年5月　同理事長に退任、相談役・会長就任

〔 所属学会・保有資格・役職 〕

- 日本抗加齢医学会 専門医
- 介護支援専門員（ケアマネジャー）
- サルコペニアフレイル指導士（日本サルコペニアフレイル学会）
- 一般社団法人日本フレイルケア普及医学会 代表理事

会 員 口 演 4

〔14:15－15:00 | 1F Room C 〕

たかはま歯科医院 院長
高濱　勉 氏

夏季の訪問歯科診療における熱中症対策
―労働安全衛生上の観点から―

目　的

訪問歯科診療では、夏季に高温環境下での移動や患者宅・施設での診療が連続し、診療従事者の熱中症リスクが高まる。2025年6月の改正労働安全衛生規則施行を踏まえ、当院で実施している熱中症対策について報告し、訪問歯科診療における労働安全衛生上の課題を考察する。

対象および方法

夏季の訪問歯科診療に従事する歯科医師、歯科衛生士等を対象に、①診療中の空調服着用、②飲料及び冷却用品の携行と計画的給水、③移動中の車両空調稼働による身体冷却を実施した。また、訪問前後及び移動中に体調確認を行った。

結果と考察

訪問歯科診療では訪問先ごとに温熱環境が異なり、診療と移動を一連の暑熱曝露として捉える必要がある。空調服、計画的給水、車両空調を組み合わせた対策は、診療従事者の暑熱負担軽減を図る実践的な安全管理策と考える。今後はWBGTの活用、報告体制及び緊急時対応手順を含め、組織的な熱中症対策として継続的に検討する必要がある。



プロフィール

〔略　歴〕
1992年３月　九州歯科大学卒業
1992年４月　京都大学医学部附属病院歯科口腔外科研修医入局
1992年５月　歯科医籍登録
1993年10月　田附興風会医学研究所北野病院歯科口腔外科医員
1995年５月　高島市民病院歯科口腔外科医員
1998年４月　医仁会武田総合病院歯科口腔外科医員
2001年５月　たかはま歯科医院 開院　訪問歯科診療開始
現在、同院院長として一般歯科、歯科口腔外科、小児歯科、矯正歯科、インプラント治療および訪問歯科診療に従事

ポ ス タ ー 発 表 1

〔 2F 展示スペース 〕

医療法人社団夢仁会　中村歯科医院
竜　佑宗 氏

ポリファーマシーで摂食嚥下障害となった高齢者に行ったアプローチ

目　的

高齢者のポリファーマシーは、食意欲低下により低栄養やフレイルを招く要因となるが、服薬の変更が難しい場合も多い。今回、服薬変更が難しい寝たきりの方へ、食事指導と環境整備により、安定して自立経口摂取可能となった症例を報告する。

症例および処置

77歳の女性。不眠症と診断され、抗うつ薬を処方されるも改善が見られず、食事も摂れなくなり寝たきりとなる。歯肉の疼痛を主訴に外来受診も、継続的に通院が困難なため訪問診療を開始。自立起床不可。認知症（－）、口腔乾燥（＋）摂食嚥下障害を認める。食意欲低下と著しい口腔乾燥により食事が摂れないため、服薬変更可能か相談と、食事回数を増やす食事指導と口腔リハビリ指導、環境整備を行った。1月後、食事意欲も増し食事の摂取量も増加。服薬の変更は出来なかったが体重も増加したため継続指導。2月後、自立起床し自宅内を自由に移動ができるまで回復。3月後、体重も4kg戻り安定して自立経口摂取が可能となり現在継続管理中である。

結果と考察

ポリファーマシーは減薬や処方適正化など医学的アプローチが望ましいが、食事指導や環境整備によるアプローチも限定的に効果的であるとわかった。



プロフィール

〔学　歴〕
2009年　日本歯科大学新潟生命歯学部 卒業
2010年　日本歯科大学新潟病院臨床研修 修了
2014年　日本歯科大学大学院新潟生命誌学研究科
小児口腔行動学専攻 修了

〔職　歴〕
2014年4月　医療法人社団神風会ライオン歯科
2017年1月　医療法人社団日吉会牧野歯科医院
2018年2月　医療法人こんどう小児歯科
（konohaこどもの歯並びクリニック）
2021年7月　医療法人社団夢仁会中村歯科医院　現在に至る

〔所属学会〕
- 日本訪問歯科協会
- 日本摂食嚥下リハビリテーション学会
- 日本老年歯科医学会
- 人間力認定協会
- 嚥下機能評価研修会

ポスター発表 2

〔 2F 展示スペース 〕

中西訪問歯科

中西　宣 氏

地域に根ざし60年　近年の取り組み

市内で3つ目の中西歯科医院として令和6年に訪問診療に特化して開設されました。地域で果たすべき役割を整理するため、過去2年間の取り組みを振り返りました。

滋賀県は平均寿命が男性1位・女性2位、健康寿命は男女ともに2位で、高齢単身者が少ないことが長寿の要因のひとつとされています。守山市も「住みここちランキング」に掲載され、また高齢者にとって暮らしやすい地域としても評価されています。

ケアマネジャーの皆様の関心事である「どこから訪問になりますか?」に対して当院は要介護認定を受けている方がほとんどであり「どのような場合に訪問になりますか?」に対して当院は認知症や脳梗塞後遺症のある方が多いことがわかりました。

これらのことから、高齢で要介護認定を受けており、住み慣れた自宅で家族と暮らす方に対する訪問診療のニーズが高い地域だとわかりました。疾患があったり配慮が必要だったりする患者様に対応するために、多職種との顔の見える関係づくりを進め、連携をさらに強化することが課題と考えます。市民の皆様に口腔の健康へ関心を持っていただくため、啓発活動を継続することも欠かせない取り組みです。



プロフィール

〔 略　歴 〕

昭和42年　大阪歯科大学卒業　大阪市「小泉歯科医院」勤務
昭和43年　滋賀県守山市「中西歯科医院」夫と共に診療に従事
令和６年　滋賀県守山市「中西訪問歯科」勤務

ポスター発表 3

〔 2F 展示スペース 〕

医療法人社団 結心会 新田歯科医院 副院長

新田 尚太 氏

特別養護老人ホームにおける要介護高齢者の口腔内環境改善に向けた訪問歯科診療の取り組み

目　的

特別養護老人ホームでは、訪問歯科診療による限られた介入のみでは、日常的な口腔衛生状態の維持・改善が困難な場合がある。そこで、施設スタッフとの連携による口腔衛生管理体制を構築し、その取り組みと効果について報告する。

対象および方法

当院が訪問診療を行う約100名規模の特別養護老人ホームを対象とした。義歯の不適切な使用、歯肉炎、う蝕、口腔カンジダ症等、多様な口腔内の問題が認められていた。2024年4月頃より1年程、施設スタッフを対象に、歯磨き、スポンジブラシの使用、義歯の取り扱い等に関する勉強会を実施した。また、口腔ケア用品を見直すとともに、看護師にはより専門的な知識を共有した。施設スタッフには、個々の状態に応じた日常的な口腔ケアを実施してもらった。

結果と考察

取り組み前後で歯科への急患依頼は1年間で127人から58人へ減少した。また、6人が食上げを行えた。施設スタッフとの連携により、歯科訪問時の介入だけでなく日常的な口腔ケアが継続され、口腔衛生状態の改善につながったと考えられる。特別養護老人ホームにおける口腔衛生管理では、歯科医療従事者と施設スタッフが連携して継続的に取り組むことが重要である。



プロフィール

〔 略　歴 〕

奥羽大学 卒業
山形大学医学部付属病院 勤務
医療法人社団 結心会 新田歯科医院 勤務

〔 9:30－10:15 | 1F Room A 〕

45分でわかる！ 訪問歯科 医療保険のキホン



講 師 **伊藤 友記** 氏 | 一般社団法人 日本訪問歯科協会

訪問診療をこれから始めようとする方が、白本や赤本をすべて読み込み、保険請求について理解するのはとても大変です。
そこでこのセッションでは、訪問診療を始めるにあたり最も重要な医療保険の点数「歯科訪問診療料」やその加算などについて、図解を用いてわかりやすく解説します。

〔 10:45－11:30 | 1F Room A 〕

45分でわかる！ 訪問歯科 介護保険のキホン



講 師 **小林 喜明** 氏 | 一般社団法人 日本訪問歯科協会

訪問診療をおこなう際にネックとなるのが、保険請求のようです。その中でも特に、介護保険の請求の仕方がわからないという声を多く聞きます。

このセッションでは、介護保険の基本のキホンから、どのような書類を揃えればよいのか、どのように算定すればよいのかを、詳しく解説します。

〔 14:15－15:00 | 1F Room A 〕

訪問歯科の効率化ツール ― 手間と時間を減らすツール活用のポイント ―



講 師 **迫 克博** 氏 | 一般社団法人 日本訪問歯科協会

訪問歯科では、診療以外にも、介護事業所への勉強会の開催、患者への説明・指導、カルテなどの各種書類作成、多職種との情報共有、その他にも様々な業務が発生します。これらをその都度、同じように対応を繰り返していては、時間と手間がかかります。

本セミナーでは、「マーケティング」「健康相談会・勉強会」「診療・口腔ケア支援」「医療事務・請求」「多職種連携」の5つの場面に分け、どのツールを、どのように活用すれば手間と時間を減らせるのか、それぞれのツールの特徴と活用ポイントを具体的に解説します。

〔 13:00－13:45 | 1F Room A 〕

デジタル技術が変える義歯製作



講 師
守口 憲三 氏
守口歯科クリニック 会長



講 師
守口 和 氏
守口歯科クリニック 院長

高齢患者の歯科診療において、義歯への対応は重要な課題の一つである。従来の義歯製作では、印象採得や咬合調整の難しさ、診療回数の多さ、金属クラスプの審美性など、さまざまな問題がある。

近年、口腔内スキャナー（IOS）とCAD/CAM技術の進歩により、義歯製作にもデジタル技術が活用されるようになってきた。その一つが、金属を使用せず、柔軟性と審美性を備えた「ポリフレックスデンチャー」である。一体成型されたディスクから削り出して製作することで、高い適合精度が期待でき、調整時間の短縮や患者の負担軽減にもつながる。

従来の印象採得では、印象材の熱膨張や収縮への対応が必要であった。また、口腔内には硬い歯牙と柔らかい粘膜が存在するため、同じ圧力で印象採得しても、同じような印象を得ることはできなかった。

こうした問題に対し、印象圧を調整する技術が用いられていた。モデリングコンパウンドと恒温槽を使用し、最初は強く押しつけ、その後は力を抜き、最後は印象圧を調整しながら印象を採得する方法である。非常に精密で適合のよい義歯が製作されていたが、熟練した技術を必要とするものであった。これは非常に難しいテクニックで、名人芸であった。しかし、IOSの登場により、従来は名人芸とされていた精密な技術についても、デジタル技術を用いた対応が可能になった。

本講演では、口腔内スキャナーを用いたポリフレックスデンチャーの特徴や製作工程、歯科技工所とのデータ共有方法について解説する。また、実際の臨床症例を通じて、デジタル技術を活用した義歯製作の有用性と、訪問歯科診療における活用の可能性について紹介する。

プロフィール

守口 憲三 氏
守口歯科クリニック 会長

〔 略 歴 〕
昭和51年　岩手医科大学歯学部 卒業
昭和51年４月　歯科医師国家試験合格
（登録 昭和51年6月10日 第69147号）
昭和54年５月　守口歯科クリニック開業
平成15年12月　歯学博士

〔 所属団体 〕
昭和60年４月　盛岡市歯科医師会 常務理事
昭和63年４月　盛岡市歯科医師会 常務理事
平成３年４月　岩手県歯科医師会 常務理事
平成９年４月　岩手県歯科医師連盟 副会長
岩手医科大学 歯学会 評議委員
南カリフォルニア大学歯学部 日本部会 理事長
MEDENTO（アストラインプラント）教授
平成22年12月　岩手医科大学歯学部 臨床教授に就任

令和６年11月　瑞宝双光章受章

守口 和 氏
守口歯科クリニック 院長

〔 略 歴 〕
1999年 岩手医科大学歯学部 卒業
2000年 守口歯科クリニック勤務 副院長
2001年 米国 南カルフォルニア大学歯学部留学
メデントインスティテュートエグゼクティブインストラクター
2004年 一本木歯科クリニック勤務
2005年 スウェーデンイエテボリ大学顎顔面外科留学
2014年 ニューヨーク大学インプラント科卒業
2020年 スウェーデンイエテボリ大学 カール・エリック・カーンバーグスクール東京校 校長就任

〔 所属団体 〕
● EAO正会員
● University of Southern California School of Dentistry Century Club in Japan Section
● 日本訪問歯科協会 ● 歯科放射線学会
● NPO法人歯科学研究所 ● ICOIインプラント国際学会
● 国際レーザー学会

〔 9:30－10:15 | 1F Room B 〕 定員：40名



〈 VEデモ講座 〉

歯科訪問診療におけるVEの有用性

講 師

大久保 正彦 氏 | 医療法人 永寿会 恩方病院　歯科・歯科口腔外科

高齢化が進む現在、訪問歯科診療において嚥下機能評価の重要性はますます高まっています。なかでも嚥下内視鏡検査（VE）は、患者の自宅や施設で実施でき、咽頭期の嚥下機能、誤嚥や喉頭侵入の有無、食道入口部の残留など多くの情報を簡便に得られることから、訪問診療に非常に適した評価手段です。

一方でVEは平面的な視野での検査であるため、咽頭の垂直的な構造を理解しておく必要があり、観察視野の制限、誤嚥の見逃し、口腔期の評価が困難といった限界もあります。

本デモ講座では、VEの基本的な実施方法に加え、臨床現場で遭遇しやすい所見のピットフォール、VEだけでは判断できないケースへの対応法について、実例を交えながら解説いたします。さらに今回は、複数社の嚥下内視鏡を実際にご紹介し、各機種の違いについても体験していただき、明日からの訪問現場で実践に活かせる知見を共有したいと考えています。

プロフィール

〔 所　属 〕
- 永寿会恩方病院歯科・歯科口腔外科
- 埼玉医科大学病院歯科口腔外科 客員講師
- 日本歯科大学口腔リハビリテーション多摩クリニック 臨床講師

〔 略　歴 〕

2012年3月　日本歯科大学生命歯学部 卒業
2014年4月　埼玉医科大学医学部口腔外科学教室 助教
2018年4月　杏林大学耳鼻咽喉科学教室顎口腔外科 助教
2019年3月　埼玉医科大学大学院 卒業（博士課程医学研究科口腔外科学専攻）
2021年4月　永寿会恩方病院歯科・歯科口腔外科
2023年4月　埼玉医科大学医学部口腔外科学教室 客員講師
　　現在に至る

〔 職　歴 〕
- 日本老年歯科医学会 代議員
- 日本摂食嚥下リハビリテーション学会 評議員
- 日本栄養治療学会（JSPEN）代議員
- 日本栄養・嚥下理学療法学会 評議員
- 日本有病者歯科医療学会 代議員

〔 10:45－11:45 | 1F Room B 〕 定員：40名



〈 実習講座 〉

口腔内からアプローチする表情筋マッサージ

講 師

平松 満紀美 氏 | NPO法人 健口サポート 歯るる　副理事長

表情筋は主に、口輪筋、頬筋、オトガイ筋など、嚥下運動必要な筋力であるほか、口角を上にあげる筋肉（軽く微笑む）、口角を横に広げる筋肉（口を開いて笑う）、目の周りの筋肉（目をパッと開いたり、眉毛の上げ下げ）があります。

硬くなった表情筋は、頬や口角が下がる、口も動かしづらくなり笑顔にならない。そうなると口腔機能の低下につながり、咬んだり飲み込んだりする嚥下機能も衰えてきます。

本講座では、口周辺の表情筋にフォーカスし、小頬骨筋、大頬骨筋、頬骨筋、笑筋、咬筋などに対し口腔内からのアプローチ圧力を具体的に実践していただきます。参加者のセルフ実習、また相互実習を実践することで、明日から現場で歯科衛生士の専門性を発揮できる内容になっています。

プロフィール

〔 略　歴 〕
- スタディグループ歯っするメイト代表
- 口腔ケアサポートグッズ「歯っするライト」考案
- 生活習慣病予防（特定保健指導）認定
- 在宅療養指導（口腔機能管理）認定
- 摂食嚥下リハビリテーション認定
- 岡山大学摂食嚥下リハビリテーション上級コース修了
- MDE協会認定デンタルエステティシャン
- 一般社団法人TOUCH口腔機能指導士
- 公益社団法人日本歯科衛生士会会員　など

〔 著書等 〕

『おひとりさま専門的口腔ケア』デンタルダイヤモンド社
DVD『総論：訪問口腔ケアの現場をのぞいてみませんか』日本訪問歯科協会
DVD『摂食嚥下障害の食支援マニュアル』日本訪問歯科協会
DVD『居住系サービス・ケアマネージャー向け 口腔ケア勉強会用スライド集』日本訪問歯科協会 ほか

〔 13:00ー14:00 | 1F Room B 〕 定 員：40名



〈 実習講座 〉

効果的な口腔清拭を体感しよう！
～ガーゼを使った口腔ケア方法～

講 師

和田 ひとみ 氏 | 口腔ケア支援グループ オーラルサポート 代表

「口腔清拭」は、一見単純なケア方法と思われがちですが、歯科衛生士が行う「口腔清拭」には機能評価のチャンスが含まれていると思います。自分自身の指先で対象者の口腔内の状況を把握する、そんな意味合いを持っています。そのためにも、私たち歯科衛生士は口腔機能への理解を深めると同時に、「丁寧に」ケアをおこなう必要があります。清拭は、使用するガーゼの質感や巻き方ひとつで効果的な口腔ケアへと変化します。指先の感覚を活かしながら、滑らかにケアを進めることで、ケアを受ける側の違和感や緊張緩和にも繋がります。

例えば食前に行う「口腔清拭」には、食事を始める為の準備体操や口腔感覚を高める効果があります。そのひと手間が対象者の安全かつ美味しく食べられるに繋がるのです。機能的口腔ケアは、歯科衛生士が行うだけでは成り立ちません。そこには「口腔の機能評価」が必要になります。口腔内をきれいにするだけではなく、「口を動きやすい状態にする」ことが口腔清拭の目的の1つだと考えます。そのことをひとりでも多くの歯科衛生士に知ってもらい、多職種との連携に繋げていくことの重要性を知る機会になれば幸いです。たかが「ガーゼ清拭」されど「ガーゼ清拭」単純だからこそ、歯科衛生士としての口腔ケアに対する「向き合い方」を振り返る機会になればと思います。

プロフィール

〔 現　職 〕
- 口腔ケア支援グループ「オーラルサポート」 フリーランス歯科衛生士
- 在宅訪問を中心に口腔ケアを行う
- 特別養護老人ホーム「やすらぎの園」非常勤歯科衛生士
- 特定医療法人財団大西会　介護老人保健施設「ひまわり」非常勤歯科衛生士
- 長野県歯科医師会　在宅連携室　非常勤歯科衛生士
- 介護施設等にて介護士向けの研修会講師
- 栄養士会、作業療法士会、各地域歯科医師会、歯科衛生士会等開催の研修会講師
- 長野摂食嚥下リハビリテーション研究会北信地区世話人
- 口腔ケア学会口腔ケアアンバサダー委員

〔 略　歴 〕

長野県公衆衛生専門学校卒業
2000年　宮本歯科医院勤務　訪問歯科診療を経験し、歯科衛生士による単独訪問で口腔ケアに従事する
2007年　フリーランスとして、訪問、口腔ケアを中心に活動

- 京都まちづくり口元気塾＆元気なお口研究会まほろば主催の研修会にて歯科衛生士が実践する「口腔機能評価、訓練」を学ぶ
- 口腔ケア支援グループ　オーラルサポートとして口腔ケアの普及に努める
- 長野摂食嚥下リハビリテーション研究会世話人
- 口腔ケアアンバサダー委員

〔 14:15ー15:15 | 1F Room B 〕 定 員：40名



〈 実習講座 〉

スポンジブラシを効果的に使いこなすコツ

講 師

齋藤 しのぶ 氏 | 医療法人永寿会 恩方病院 歯科・歯科口腔外科 歯科衛生科長

口腔衛生管理において、スポンジブラシは、柔らかく小回りが利き、粘膜処置に適しているため、繊細な口腔に欠かせない口腔衛生処置用品である。また、うがいが困難または不十分な方には、除去した汚れの回収にも活用できる。

このように、スポンジブラシは、使い方を工夫することで、口腔内のさまざまな状態に対応できる。その特性を活かし、部位や目的に応じて効果的に操作することで、清拭、軟化、除去、回収、保湿などの口腔衛生処置が可能となる。また、適切な操作を身につけることは、患者の状態に配慮した、より受け入れやすい口腔衛生管理にもつながる。

本実習では、スポンジブラシの「操作方向」と「回転方向」に焦点を当て、実際の操作を体験する。スポンジブラシを効果的に使いこなすためのコツを学び、日々の口腔衛生処置に活かして、実践につなげることを目指す。

プロフィール

〔 略　歴 〕

1996年　日本大学歯学部附属歯科衛生専門学校卒業
　　医療法人社団 隆美会 川口歯科診療所勤務
2008年　医療法人永寿会 陵北病院 歯科診療部勤務
2017年　医療法人永寿会 陵北病院 歯科診療部 主任
2018年　医療法人永寿会 陵北病院 歯科診療部 歯科衛生科長
2021年　医療法人永寿会 恩方病院 歯科・歯科口腔外科 歯科衛生科長
　　現在に至る

〔 著書等 〕

『はじめて学ぶ 非経口摂取患者の口腔衛生管理』医歯薬出版株式会社 2021年
『プロが行う訪問歯科 口腔衛生管理の実践技術』日本訪問歯科協会 2024年
『プロ向け勉強会用コンテンツ集 口腔衛生の管理』日本訪問歯科協会 2024年
『プロ向け勉強会用コンテンツ集 指示が入らない患者のための口腔衛生管理』
日本訪問歯科協会 2024年 ほか

〔 9:30－10:15 | 1F Room C 〕



むせない誤嚥、開口できない、痰を喀出できない

訪問歯科における神経疾患患者の見逃せない危険サイン

講 師

冨田　聡 氏 | 国立病院機構 宇多野病院 関西脳神経筋センター 脳神経内科医長
摂食・嚥下センター長

「むせていないから大丈夫」「いつも通り食べられているから問題ない」。神経疾患のある患者では、こうした判断が必ずしも安全性を保証するものではありません。

Parkinson病（PD）では、発症早期から嚥下障害や流涎、咳嗽力の低下をしばしば認めます。評価を難しくするのは、薬効に伴う症状や覚醒度が大きく変動することと、誤嚥時にもむせが生じないことです。「薬がなかなか効いてこない」「いつもより眠そう」「声がゴロゴロしている」など、PDに特徴的な変化を注意深く捉えることが大切です。

筋萎縮性側索硬化症（ALS）では、舌・咽頭の運動障害に加えて、開口量の減少や咳嗽力・呼吸機能の低下がどんどんと進行します。「水分を誤嚥しないか」の確認にとどまらず、「もし気道に入ったとき、自分の咳で出せるか」まで評価することが重要です。また、NIV使用例では、口腔ケアの方法や実施範囲の判断に苦慮する場面も少なくありません。

本講演はPDとALSを中心に、訪問歯科で遭遇しやすい神経疾患患者の「危険サイン」を、具体的な臨床場面に沿って整理します。むせを伴わない誤嚥や開口困難、喀出力の低下をはじめ、薬効と日内変動、呼吸状態の変化を歯科診療でどのように把握し、評価すべきかを解説します。

加えて、「その場で歯科として対応できること」と「医師・看護師・STなど他職種へ相談すべきサイン」を具体化します。これらを通じて、神経疾患患者の口腔と「食べること」を地域で安全に支えるための、臨床に即した視点を共有します。

プロフィール

〔 学　歴 〕
- 2003年3月　大阪市立大学医学部医学科 卒業
- 2003年5月　大阪市立大学医学部附属病院 耳鼻咽喉科 前期研究医
- 2006年5月　東京都立神経病院 神経内科 専門修練医
- 2007年5月　国立病院機構 宇多野病院 神経内科 専修医
- 2010年4月　国立病院機構 宇多野病院 神経内科医師
- 2017年4月　国立病院機構 宇多野病院 神経内科医長
- 2019年1月　医学博士（京都大学）
- 2025年5月　国立病院機構 宇多野病院 摂食・嚥下センター長　現在に至る

〔資　格 〕
- 日本内科学会認定内科医、総合専門医 ● 日本神経学会専門医・指導医
- 日本認知症学会専門医・指導医 ● 日本臨床神経生理学会専門医（筋電図・神経伝導分野）
- 日本栄養治療学会認定医

〔 所属学会 〕
- 日本神経摂食嚥下・栄養学会 理事 ● 日本内科学会 ● 日本神経学会 ● 日本認知症学会
- 日本臨床神経生理学会 ● 日本パーキンソン病・運動障害疾患学会 ● 日本音声言語医学会
- 日本摂食・嚥下リハビリテーション学会 ● 日本嚥下医学会 ● 日本栄養治療学会

〔 10:45－11:30 | 1F Room C 〕



口腔衛生管理・口腔機能低下症

講 師

大野 友久 氏 | 医療法人永寿会 陵北病院 歯科診療部長

高齢者への対応は二段階ある。一つは日常生活が自立している地域在住の高齢者への対応で、もう一つは要介護高齢者など重篤な疾患に罹患した高齢者への対応である。

口腔衛生管理・口腔機能低下症への対応はどちらの高齢者にも必要であるが、対応方法に異なる点は多い。自立高齢者には予防的な観点での対応が必要で、歯科訪問診療の対象となる要介護高齢者には、限界はあるが改善するための対応が必要である。要介護高齢者の病期・ステージにもよるが、口腔機能低下症を改善するために重要なのは、十分に機能する口腔を作り、実際に摂食や発話させることである。

例えると、靴が壊れたまま走る訓練をするのではなく、靴を修理してから走る訓練をすることが最適な機能改善につながる、ということである。つまり、口腔体操のような訓練を指示するだけではなく、歯科医師本来の仕事である歯科治療を確実に実施することが重要なのである。それを忘れてはいけない。

プロフィール

〔 略　歴 〕
- 1998年　東京医科歯科大学（現東京科学大学）歯学部 卒業
- 2001年　聖隷三方原病院 リハビリテーション科歯科 勤務
- 2002年　東京医科歯科大学 大学院医歯学総合研究科 卒業
- 2013年　聖隷三方原病院 歯科 部長
- 2015年　国立長寿医療研究センター 歯科口腔外科 勤務
- 2017年　国立長寿医療研究センター 室長
- 2019年　浜松市リハビリテーション病院 歯科 部長
- 2024年　陵北病院 歯科 診療部長

〔 所属学会 〕
- 日本老年歯科医学会 理事・代議員・指導医・専門医・認定医・摂食機能療法専門歯科医師
- 日本摂食嚥下リハビリテーション学会 理事・認定士・評議員

〔 13:00－13:45 | 1F Room C 〕



歯科医療者だからできる 摂食嚥下リハビリテーション

講 師

谷口 裕重 氏 | 朝日大学 歯学部 摂食嚥下リハビリテーション学分野 教授

私が摂食嚥下リハビリテーションを学び始めた20数年前は、脳血管疾患や神経筋疾患等により失われた機能をいかに回復させるか、あるいは残存機能をいかに活用するかが中心でした。

しかし現在では、サルコペニアの嚥下障害という概念が広まり、従来の機能訓練に加えて、全身・栄養・口腔を一体として捉える包括的な支援が求められています。まさに今、口腔を日常的に診る歯科医療者の役割がこれまで以上に重要になっています。

摂食嚥下は「専門外」「難しい」と思われがちですが、その入口は日常の歯科診療や口腔機能管理の延長線上にあります。

本セミナーでは、口腔機能低下・低栄養と摂食嚥下障害とのつながりを整理し、歯科医療者が訪問現場で「何を見て、どう支援すべきか」を、具体的な症例を交えて紹介します。そして、明日からの診療につながるヒントをお伝えします。訪問歯科診療を始めた方はもちろん、臨床力を高めたい方も、ぜひご参加ください。

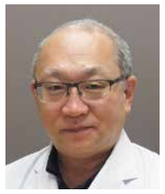
プロフィール

〔 学歴・職歴 〕
2004年3月　愛知学院大学歯学部 卒業
2004年4月　新潟大学医歯学総合研究科（口腔生命科学専攻）博士課程 入学
2008年3月　同上 卒業
2008年４月～2008年８月　新潟大学医歯学総合研究科 摂食・嚥下リハビリテーション学分野 医員
2008年８月～2010年３月　新潟大学医歯学総合研究科 摂食・嚥下リハビリテーション学分野 助教
2010年４月～2015年３月　新潟大学医歯学総合病院 摂食・嚥下機能回復部 講師
2012年２月～2012年９月　Johns Hopkins University, Department of Physical Medicine and Rehabilitation Medicine, Post-Doctoral Fellow
2015年４月～2017年３月　藤田保健衛生大学医学部 歯科 講師
2017年４月～2018年10月　藤田保健衛生大学医学部 歯科・口腔外科 講師
2018年10月～2020年３月　朝日大学歯学部 障害者歯科学分野 准教授
2020年４月～2023年３月　朝日大学歯学部 摂食嚥下リハビリテーション学分野 准教授
2023年４月～朝日大学歯学部 摂食嚥下リハビリテーション学分野 主任教授
2024年４月～朝日大学病院 口腔管理・食支援センター センター長（併任）　現職に至る

〔 学　位 〕
- 日本摂食嚥下リハビリテーション学会 学会評議員 / 認定士
- 日本老年歯科医学会 代議員 / 摂食機能療法専門歯科医師 / 指導医 / 専門医 / 認定医
- 日本栄養治療学会 学術評議員 / 認定歯科医 ● 日本栄養治療学会 東海支部 世話人
- 日本リハビリテーション栄養学会 リハ栄養指導士 ● 日本神経摂食嚥下・栄養研究会 代議員　他

〔 書　籍 〕
『標準言語聴覚障害学「摂食嚥下障害学 第3版」』医学書院 2025年
『患者さんにしっかり説明できる4 摂食嚥下リハビリテーション読本』クインテッセンス出版 2026年
『動画とフローチャートで学ぶ 摂食嚥下機能評価』GOLD STANDARD,医歯薬出版 2026年　他

〔 9:30－10:15 | 2F テラスルーム 〕



実践ミールラウンドセミナー

講 師

阪口 英夫 氏 | 医療法人永寿会 陵北病院 副院長

介護保険における経口維持加算の算定要件であるミールラウンドは、介護保険施設から連携歯科診療所に参加を期待する項目としても上位に位置しています。また、令和8年度に行われた診療報酬改定では、医療機関において嚥下調整食の提供が認められ、その要件の1つにミールラウンドの実施が盛り込まれました。

歯科医師が食事場面に臨場し、個々の患者さんへの食事提供方法のアドバイスは、ますます重要性を増しているといえます。しかし、調査では、在宅療養支援歯科診療所であってもミールラウンドへの参加は10%未満しかないとの報告があります。国は歯科医師に積極的な参加を促すために、在宅歯科栄養サポートチーム等連携指導料を作りましたが、その算定件数が増えなかったため、令和8年度の診療報酬改定では、歯科医師の指示を受けた歯科衛生士が行った場合にも算定が可能という思い切った制度改正に踏み切りました。それほどまでに重要なミールラウンドはいったいどんなことをおこなっていくのでしょうか。

今回の講演では、我々の病院で実際におこなわれているミールラウンドの実際を紹介し、その観察の視点や指導の方法、他職種との連携などについて時間の許す限りご紹介していこうと思います。多くの方にご参加いただき、ミールラウンドの普及に役立てて頂ければと思います。

プロフィール

〔 学歴・職歴 〕
1989年　東北歯科大学（現奥羽大学）歯学部 卒業
1999年　東京医科歯科大学歯学部 高齢者歯科学講座 非常勤講師（兼務）
2005年　明海大学 歯学部 社会健康科学講座 口腔衛生分野 講師（兼務）
2006年　奥羽大学 歯学部 高齢者歯科学講座 講師（兼務）
2014年　東京医科歯科大学（現東京科学大学）医歯学総合研究科 卒業 歯学博士
2014年　医療法人永寿会 陵北病院 歯科診療部 歯科診療部長
2018年　医療法人永寿会 陵北病院 副院長 現職
2022年　九州歯科大学 歯学部 生化学講座 講師（兼務）

〔 役　員 〕
- 日本老年歯科医学会 理事 ● 日本病院歯科口腔外科連絡協議会 幹事
- 日本口腔ケア学会 評議員 ● 日本摂食嚥下リハビリテーション学会評議員
- 社会歯科学会 評議員
- 日本歯科医学会「口腔ケアに関する検討委員会」委員
- 日本老年歯科医学会 社会保険委員会 委員長
- 日本老年歯科医学会 歯科衛生士関連委員会委員
- 日本慢性期リハビリテーション協会 摂食嚥下委員会 委員長

〔 公　職 〕
- 厚生労働省医政局 歯科衛生士の業務のあり方等に関する検討会 構成員

〔 資　格 〕
- 日本老年歯科医学会 専門医 指導医
- 日本口腔ケア学会 指導者

〔 書　籍 〕
『要介護高齢者の口腔病変アトラス』（単著）ヒョウロンパブリッシャーズ 2023年
『はじめて学ぶ非経口摂取患者の口腔衛生管理』（共著）医歯薬出版 2021年
『老年歯科医学 第2版』（共著）医歯薬出版 2022年　他

〔 10:45－11:30 | 2F テラスルーム 〕



食べるにこだわる高齢者への訪問義歯診療

講 師

鈴木 宏樹 氏 | 医療法人福和会 高齢者診療部 部長
公立八女総合病院歯科口腔外科 補綴担当

食べるためには様々な口腔機能が必要となります。口腔機能を低下させないためには、やはり歯を失わないのが1番ですが、高齢期においては様々な理由で歯を失うことが多いのが現実です。

歯の欠損を私たちは義歯等で補綴することで口腔機能を回復させてきましたが、近年は義歯患者の高齢化が進んだことにより、単に義歯を製作したからといって必ずしも口腔内で機能するとは限りません。特に訪問診療の場では外来とは違った難しさがあり、食べられる義歯を製作することが困難なことも多くあります。

今回は高齢者に対する義歯治療においてどのように食べられるようにするか、特に歯科訪問診療の場においての義歯治療のポイントやコツなどについてお話します。

プロフィール

〔 学　歴 〕
2001年　福岡歯科大学歯学部 卒業
2017年　九州大学大学院歯学府歯学専攻 入学
2021年　九州大学大学院歯学府歯学専攻 卒業
　　博士（歯学）学位取得

〔 職　歴 〕
2003年　医）芳香会 博多歯科クリニック
2010年　医）井上会 篠栗病院 歯科医長
2021年　九州大学大学院歯学研究院口腔機能修復学講座 共同研究員
2023年　公立八女総合病院 歯科口腔外科 補綴担当
　　医）福和会 高齢者診療部 部長

〔 所属学会・資格等 〕
- 日本有床義歯学会 指導医
- 日本顎咬合学会 指導医
- 日本老年歯科医学会 指導医
- 日本摂食嚥下リハビリテーション学会 認定士
- 日本口腔ケア学会 病院総合歯科医師指導医，評議員
- 日本義歯ケア学会 認定義歯ケアマイスター

〔 13:00－13:45 | 2F テラスルーム 〕



訪問歯科で診る口腔粘膜『これって何？』から考える見方と対応

講 師

今井 美季子 氏 | 大阪歯科大学附属病院 口腔リハビリテーション科

訪問歯科医療では、全身状態や生活背景が多様な患者さんを対象とすることが多く、限られた環境の中で口腔内の変化を的確に捉えることが求められます。口腔粘膜の変化は口腔乾燥や口腔清掃状態だけではなく、全身疾患や栄養状態、服薬状況などさまざまな要因により影響されます。

粘膜に認められる「発赤」「出血」「潰瘍」や「上皮剥離」など局所的な問題として捉えるだけでなく、その背景にある問題を考え必要な対応に繋げる視点が重要です。また口腔粘膜の異常が患者さんの全身状態、生活環境の変化を把握する手がかりとなり、医科をはじめとする多職種との連携、情報共有に繋がります。

本セミナーでは口腔粘膜観察のポイント、考えられる要因などについて整理します。口腔粘膜を「診る」視点を深め、日々の訪問歯科医療における口腔健康管理の一助となれば幸いです。

プロフィール

〔 学　歴 〕
2000年3月　関西女子短期大学 保健科歯科衛生士学科 卒業
2015年4月　武庫川女子大学大学院 健康スポーツ科学研究科
　　健康スポーツ科学修士課程 入学
2017年3月　武庫川女子大学大学院 健康スポーツ科学研究科
　　健康スポーツ科学修士課程 卒業
2023年4月　大阪歯科大学大学院医保健学研究科口腔科学専攻
　　博士課程（後期）在学中

〔 略　歴 〕
2000年4月　社会医療人若弘会 わかくさ竜間リハビリテーション病院 入職
2017年3月　社会医療人若弘会 わかくさ竜間リハビリテーション病院 退職
2017年4月　大阪歯科大学附属病院 口腔リハビリテーション科（専任歯科衛生士）入職
　　現職に至る

〔 資格・免許 〕
- 歯科衛生士 ● 健康運動実践指導者 ● 健康運動指導士
- 学会認定 日本口腔リハビリテーション学会認定歯科衛生士
- 日本歯科衛生士会 在宅療養指導

出展企業一覧

会場案内（3・4ページ）の出展ブース番号順になります

出展企業	ご紹介商品と商品概要
①株式会社ライフ TEL 090-3500-2571 埼玉県越谷市登戸町15-5 山新ビル2F	●口腔水分計ムーカス® Murata口腔湿潤計ムーカス® 口腔乾燥症、口腔機能低下症、口腔粘膜湿潤度検査の診断機器
②パナソニック株式会社 TEL 0120-87-8857 滋賀県草津市野路東3丁目4番7号	●口腔内細菌カウンタ、自動ジェット式器具洗浄機 訪問時の口腔バイオフィルム感染症の口腔細菌定量検査に保険適用
③株式会社ヨシダ TEL 03-3845-2971 東京都台東区上野7-6-9	●未来ケアナビ、Murataムーカス、Oramo2、口腔内細菌カウンタ、クラプロックス、オーラルピース、吉野家製品、クリニコ製品　等 口腔ケア・口腔機能管理・栄養関連製品
④株式会社吉野家 TEL 03-5651-8744 東京都中央区日本橋箱崎町36-2 Daiwaリバーゲート18階	●吉野家やさしいごはんシリーズ 次年度に向けた新商品の試食を実施いたします
⑤アース製薬株式会社 TEL 03-5207-7788 東京都千代田区神田司町2-12-1	●MA-T マウスウォッシュスプレー、MA-T マウスクリーンジェル 乾燥・口臭予防と汚れ除去に使用できる新感覚の口腔ケア製品
⑥アサヒグループ食品株式会社 TEL 080-8035-9173 東京都墨田区吾妻橋1-23-1 アサヒグループ本社	●アサヒの口腔ケアブランド「オーラルプラス」、介護食ブランド「まんぷく日和」 在宅介護をささえる、アサヒの口腔ケア商品と介護食の紹介
⑦日本アイ・エス・ケイ株式会社 TEL 029-869-2001 茨城県つくば市寺具1395-1	●ポータブルユニット　かれんEZ＋プレミアム かれんEZ+にEMS社のスケーラーを搭載した新仕様が登場
⑧大和製罐株式会社 TEL 03-6212-9744 東京都千代田区丸の内2-7-2	●エバースマイル ムース食・とろみ飲料 素材本来の風味を味わえるムース食。均質な物性のとろみ飲料
⑨イーエヌ大塚製薬株式会社 TEL 080-8914-2776 東京都千代田区神田小川町1-1 日幸神田ビル6階	●口腔ケア商品ヒノーラ・やわらか食あいーと 口腔ケアとやわらか食で食べる喜びをトータルサポート
⑩株式会社歯愛メディカル TEL 03-3294-8788 東京都千代田区神田駿河台2-8	●ポータブルユニット　メディ 操作性を追求したシンプル設計で、快適で質の高い歯科診療を提供
⑪サンスター株式会社 TEL 080-2441-5690 東京都港区3-8-2 芝公園ファーストビル21階	●バトラー口腔ケアシリーズ お口の中の保湿と低刺激で、やさしいケア
⑫株式会社GENOVA TEL 03-5766-1820 東京都渋谷区渋谷2-21-1 渋谷ヒカリエ34F	●NOMOCa-AI chat 患者の問合せに24時間自動対応するクリニック向けAIチャット
⑬第一三共ヘルスケア株式会社 TEL 090-4059-9510 東京都中央区日本橋3-14-10	●クリーンデンタル歯磨剤（医薬部外品） 歯周病予防用の歯磨剤
⑭株式会社メドレー TEL 050-1751-0849 東京都港区六本木6-10-1六本木ヒルズ森タワー13階	●DENTIS 外来・訪問まで、歯科DXすべてをワンパッケージで提供
⑮ストローマン・ジャパン株式会社 TEL 0120-418-995 東京都港区芝5-36-7 三田ベルシュビル6階	●Straumann Dental Implant System Straumann Dental Implant System等
⑯クロスログ株式会社 TEL 050-3528-8040 福岡県福岡市博多区博多駅中央街8-27 第16岡部ビル5階	●在宅医療スケジュール管理サービス CrossLog 訪問歯科のスケジュール・情報共有をもっとスマートに
⑰サンシステム株式会社 TEL 03-5816-6751 東京都千代田区外神田6-10-6 SSビル	●Sunny-NORIS Cloud 訪問診療に強い歯科用クラウド型レセプトコンピューター
⑱株式会社 シケン TEL 080-3472-4699 千葉県船橋市本町3-32-25 あいおいニッセイ同和損保船橋ビル8階	●マウスピース 洗浄剤 PRO ウォッシュ 技工士推奨5分で漬け置き洗浄できる3種の香りのマウスピース剤

出展企業	ご紹介商品と商品概要
⑲株式会社オールウェイズ TEL 0256-46-8833 新潟県燕市井土巻4丁目137番地	●吸引歯ブラシ　キューテクト & キューテクト超ソフト 吸引カテーテルに直接繋いで片手で吸引しながら口腔ケア
⑳株式会社エントラスト TEL 022-765-5655 宮城県仙台市青葉区1-8-14 仙台協立第2ビル2階	●ホームページ制作 歯科医院専門のホームページ制作
㉑ワシエスメディカル株式会社 TEL 03-3815-7671 東京都文京区本郷2-31-8	●嚥下機能評価内視鏡システム 顎関節脱臼顎外固定装置 吸引器 嚥下機能評価内視鏡システムのことならお気軽にご相談ください
㉒横浜金属商事株式会社 TEL 022-226-7704 宮城県仙台市太白区秋保町長袋字上原10-1	●歯科材貴金属、ゴールドクラブ 歯科材貴金属の精錬分析リサイクル買取、純金積立
㉓株式会社CARESソリューションセンター TEL 03-6433-2280 東京都品川区南品川2丁目2-5 REID-C南品川ビル4F	●ミリングマシン　PolyFlex（ミリングマテリアル） ノンクラスプデンチャー用のPolyFlexや切削機の展示
㉔日本歯科薬品株式会社 TEL 083-222-2221 山口県下関市竹崎町4-7-24 エストラスト下関センタービル6階	●グリップオフ クリームタイプ義歯安定剤がスッキリとれる除去液が新登場!
㉕株式会社モリタ TEL 06-6380-2525 大阪府吹田市垂水町3丁目33-18	●可搬式歯科用ユニット「Portacube+」 「軽い・簡単・快適」を実現した一体型の訪問診療用ユニット
㉖株式会社ロッテホールディングス TEL 03-5388-5697 東京都新宿区西新宿3-20-1	●口腔リハビリサポートシステム「mogpal」 口腔機能管理の『わからない』をワンストップで解消
㉗デキシコウインジャパン株式会社 TEL 078-304-5311 兵庫県神戸市中央区港島南町5-5-2	●デキシコ ADX4000W 撮影・診断・画像の保存が1台で可能な歯科用ポータブルX線装置
㉘川本産業株式会社 TEL 06-6943-8961 大阪府大阪市中央区谷町2-6-4	●口腔ケアブランド「マウスピュア」 お口の保湿・清掃・マッサージをトータルサポートします
㉙長田電機工業株式会社 TEL 03-3492-7651 東京都品川区西五反田5-17-5	●ポータブルユニットデイジー2 訪問先での診療環境をサポートするポータブルユニット
㉚I-Deer Works TEL 050-8886-3125 愛知県名古屋市中村区名駅3-4-10 アルティメイト名駅1st 2階	●RxGuards（訪問歯科の業務支援アプリ） 訪問歯科の予定・処置記録・書類・服薬確認をiPadひとつで
㉛ノーベル・バイオケア・ジャパン株式会社 TEL 03-6408-4207 東京都品川区北品川4-7-35 御殿山トラストタワー13F	●IS 3800W (口腔内スキャナー) 人間工学に基づくデザインでより速い光学印象採得を実現します
㉜株式会社 S・Metal Service TEL 082-521-1360 広島県広島市安佐南区毘沙門台1-26-31	●歯科関係貴金属の分析買取 蛍光X線による貴金属（歯科材・宝飾）の純度分析
㉝ジャパンクオリティ株式会社 TEL 03-5356-9151 東京都豊島区南大塚3-30-3 大塚トーセイビルⅢ10F	●SHINING3D社 口腔内スキャナー 高精度かつ高速スキャンを優れたコスパで実現
㉞ViXion株式会社 TEL 03-6810-9046 東京都中央区日本橋堀留町1-4-2-8F	●オートフォーカスルーペ ViXion Loupe オートフォーカスのガレリアン式ルーペ（2.5x/3.5x）
㉟株式会社VIPグローバル TEL 06-6304-9515 大阪府大阪市淀川区西中島3-14-27-102	●フットケア医療機器　ビーフロー（B'flow） 5分間の使用で5kmの懸命歩行に匹敵する血行促進

協賛企業一覧

協賛企業	ご紹介商品と商品概要
リコーリース株式会社 TEL 03-6204-0672 東京都港区東新橋1-5-2 汐留シティセンター19階	●口座振替サービス 訪問診療費の回収に利用可能。豊富な導入実績あり
株式会社ノーザ TEL 03-5348-1881 東京都中野区中央1-21-4 ノーザビル	●mogpal（モグパル） 歯科医院向け口腔リハビリサポートシステム



訪問歯科クリニック様へご提案

リコーリース株式会社

訪問診療の治療費請求 こんなお悩みありませんか？

集金のための交通費や 人手不足で手間がかかる！	現場で現金回収しているが 盗難や紛失が心配…	毎回期日通りに 回収できなくて困る！



お客様の口座から代行回収
「口座振替」を いたします

初期導入費用0円！ 費用発生は ご請求月から	**請求件数１件からOK！** 開業当初から ご利用可能	**個人契約も可能！** 個人事業主様でも 導入可能

専用のフリーダイヤルをご用意。導入後も安心のサポート体制

クリニック様向け口座振替サービス**ご優待価格**を準備しております

詳細お問合せは下記 TEL、URL もしくは QR コードから！
キャンペーンコード「MA2611」を必ずお伝えください！

https://www.rl-shukin.jp/lp_shukin03/
リコーリース株式会社　東京都港区東新橋1-5-2
BPO営業部　マーケティング課
TEL：0120-727-702　受付時間：平日 9:00 ～ 17:00

いつも貴金属リサイクルの 最先端に私たちはいます。



純金積立（ゴールドクラブ）

横浜金属ゴールドクラブで
純金積立をしませんか？
（横浜金属株式会社運用）



貴金属（宝飾品等）買取

貴金属精製グループだからこそ
どこよりも高値買取致します。

歯科材リサイクル

歯科医院 ・技工所様から発生する歯科材スクラップを受託精製回収及び買取致します。

【横浜金属㈱】
- ●一般社団法人 日本経済団体連合会会員
- ●一般社団法人 日本金地金流通協会正会員
- ●L.M.E(ロンドン金属取引所)銀地金公認ブランド
- ●㈱大阪取引所 銀地金受渡供用品指定ブランド
- ●㈱大阪取引所 銀地金指定鑑定業者
- ●日本産業規格認証取得工場（銀地金）
- ●ISO9001 認証登録

【横浜金属商事㈱環境リサイクル部門仙台事業所】
- ●ISO14001 認証登録

YOKOHAMA METAL CO.,LTD.
横浜金属商事株式会社
仙台支店/〒982-0243 宮城県仙台市太白区秋保町長袋字上原10-1
事業本部 /〒252-0244 神奈川県相模原市中央区田名 3656-4
Tel:042-774-5481 Fax:042-773-4775
本社・仙台・東京・名古屋・大阪・広島・福岡・札幌(営)・北陸(営)・四国(営)
https://yk-metal.com
0120-10-4580

横浜金属グループは貴金属リサイクルを通じて地球環境の保全に貢献しています。

NHOSA ノーザ



訪問診療で便利な キャッシュレス決済

チョキペイ

小さな感動を、もっと。

業界最低水準の決済手数料率

1.79%

(VISA/Mastercard の場合)

院内利用の端末がそのまま訪問先で使えます。

※WiFi やテザリング等の通信環境設定が必要です。

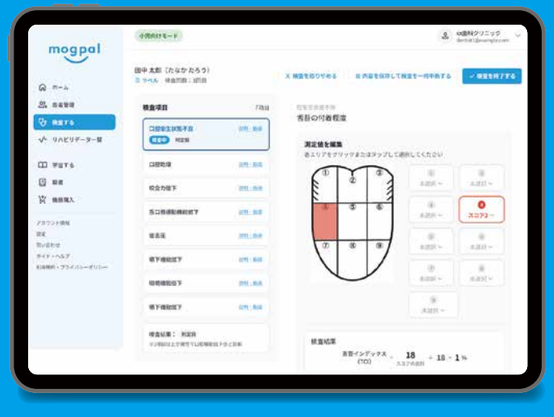
- おつりを用意する必要がありません
- コンパクトでコードレス (プリンタ内蔵)
- モバイル型なので院内 / 院外の双方で利用可能
- マルチ決済対応 (クレジット、電子マネー、QR 決済)

口腔機能管理を \3日で/ スタートできる※

※利用医院様のコメントに基づきます。

mogpal モグパル

— 口腔機能管理を医院経営の新しい柱に —



超高齢社会の到来と診療報酬改定により、重要性が高まる口腔機能管理。
限られた時間・人員の中でも、新たな収益の柱を築くサポートをします。

株式会社 ノーザ 〒164-0011 東京都中野区中央1-21-4 (ノーザビル)
TEL 03.5348.1881 (代表) FAX 03.5348.1885
WEB https://www.nhosa.com

※本製品は医療機器ではありません。※製品改良のため仕様の一部を予告なく変更することがあります。※製品の画像や色調は印刷のため実物と異なる場合があります。※当広告で使用している人名等はすべて架空のものです。※当広告の記載内容について、許可なく引用・転写することを禁じます。

詳細はホームページでご案内しています。
ノーザ

KING

PORTABLE UNIT

かれんEZ+ PREMIUM

イーゼット プラス プレミアム

EMS ピエゾン® 搭載

準備・片付のスピード革命



超軽量 8.8kg

吸引力 約75%アップ 弊社同クラス機種比

かれんEZ 可搬式歯科用ユニット (JMDNコード：70725000)
管理医療機器 (クラスII) 特定保守管理医療機器
医療機器認証番号：302AIBZX00030000号

hirosawa group

東証スタンダード上場 コード番号7986

日本アイ・エス・ケイ株式会社

本社・筑波工場 〒300-4297 茨城県つくば市寺具1395-1 ☎ 029-869-2001(代)
東京事業所 〒111-8506 東京都台東区元浅草2-7-13 ☎ 03-3833-2001(代)

歯科衛生士育成の専門学校を併設している唯一のメーカーです



CAD/CAM Solution

POLY FLEX



弾性の高い素材

Lineup

PolyFlex Pink　20mm
PolyFlex Clear　20mm

歯科用CAD/CAMマテリアル

ノンクラスプデンチャーやスプリントの製作が可能

30日以上の長期的使用が可能なディスク型の
スプリント材料として国内初の認証※

※国内で販売されているミリングマシンで製作する
ディスク型材料を対象とした製品として国内初認証（自社調査）

販売名：ポリフレックス　認証番号：305AKBZX00083000

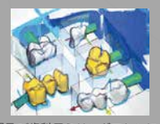
Milling Machine

CORiTEC series



150i dry　350i Loader PRO

hyperDENT COMPACT



工業界及び歯科用ミリングマシンにおいて
高い信頼のあるCAM ソフトウェア

技工作業を極力削減するための特注加工パスにより
歯科技工士の手作業負担を軽減

X-Mill series



500 Plus　520DC　580 DC　630

販売名：X-Mill シリーズ　届出番号：13B2X10564000001
販売名：CORITEC 150i シリーズ　届出番号：13B2X10463000011
販売名：CORITEC 350i シリーズ　届出番号：13B2X10463000002

【X-Millシリーズ販売元】
【その他 製造販売元/販売元】

CARES Solution Center
株式会社CARESソリューションセンター
〒140-0004　東京都品川区南品川2-2-5 REID-C南品川ビル 4F
お問い合わせ先　FREE 0120-03-2280　03-6433-2280　info@cares-sc.jp

CSC official SNS

Catalog

【X-Millシリーズ 製造販売元】

DXP
株式会社　DX プロ

DXプロ公式HP

straumann

STRAUMANN® SIRIOS™ X3

CAPTURE EXCELLENCE

新たなレベルのスキャン体験

SMILECLOUD

歯科医療のデジタルワークフローを、次のステージへ。

BLUEPRINT

スマイルデザインと 3D の解剖学的リファレンスを 1 つの整理されたビューに統合しチームの連携を支援します。アイデアの構造化、パートナーとの連携、デジタル計画および設計ツールに適したデザインをエクスポートします。



本製品は医療機器ソフトウェアではありません。疾病または健康状態の診断、（医療的）処置、治療、（疾病または健康悪化の）予防を目的とするものではありません。情報提供、教育、共有目的でのみ使用してください。歯科医師が本製品を使用する場合は、歯科技工士との連携や設計確認等、補助的な目的に限りご使用ください。

ストローマン　SIRIOS　X3　イントラオーラルスキャナ　管理医療機器　30700BZX00339000

製品についての詳細

ストローマン・ジャパン株式会社
〒108-0014 東京都港区芝5-36-7 三田ベルジュビル 6階

〈実行委員〉

学会長	野坂 洋一郎	岩手医科大学名誉教授
副学会長	小豆嶋 正典	岩手医科大学名誉教授
	城　茂治	岩手医科大学名誉教授
実行委員長	守口　憲三	一般社団法人 日本訪問歯科協会 理事長　守口歯科クリニック 院長
実行委員	二木　由峰	一般社団法人 日本訪問歯科協会 中国ブロック長　医療法人社団峰良会 理事長
	近藤 公一郎	一般社団法人 日本訪問歯科協会 北日本ブロック長　近藤歯科医院 院長
	坂口　豊	一般社団法人 日本訪問歯科協会 関東ブロック長　坂口歯科医院 院長
	桐山　立志	一般社団法人 日本訪問歯科協会 中部ブロック長　医療法人桐華会 桐山歯科医院 理事長
	西村　有祐	一般社団法人 日本訪問歯科協会 関西ブロック長　医療法人祐愛会西村歯科 理事長
	今井　洋一	一般社団法人 日本訪問歯科協会 四国ブロック長　医療法人 いまい歯科医院 理事長
	青山　修	一般社団法人 日本訪問歯科協会 九州ブロック長　医療法人社団 秀歌会 青山歯科医院 理事長
	森川　真作	一般社団法人 日本訪問歯科協会 監事　医療法人真美会 森川歯科クリニック 院長

〈運営〉 一般社団法人 日本訪問歯科協会 事務局

一般社団法人
日本訪問歯科協会　事務局　〒101-0037 東京都千代田区神田西福田町４ ONEST 神田西福田町ビル8F　TEL 0120-299-505

第26回
日本訪問歯科医学会

あきらめない 届く訪問歯科医療を目指して

― 広げよう 在宅歯科医療の可能性 ―



©2026 一般社団法人 日本訪問歯科協会